

(ゲーム本編に)救済な
んかあらへんで！絶対
に笑ってはいけないグ
リフィン指揮官養成所
24時

伊勢村誠三

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

某月某日。M16、AR15、M4、UMP45、UMP9は呼び出された先でカリーナの代理として待っていたモシン・ナガンにこう告げられた。

「今日1日あなた達同志諸君には指揮官見習いをやってもらうわ。」

唯一本家を見たことのあるM16以外全員が困惑する中次々と送り込まれるグリフィンが誇る笑いの刺客たち。果たして5人は無事に帰れるのか？そして画面の前のあなたは本編と矛盾どころの騒ぎじゃないというツツコミを抑えて読み切ることが出来るのか？

ドルフロのss初挑戦です。生暖かい目で見守って下さい。

目次

午前9時	某運動場	1
午前9時台	バス内にて	9
午前9時30分	所長室にて	18
午前10時	新人待機室	30
午前11時	バス内にて	51
午前11時30分	訓練場にて	57
正午	B棟前にて。	66
午後12時半	新人待機室にて	78
午後13時半	新人待機室にて	89
午後15時	作業室にて	110
17時	講堂にて	121
20時	深夜の司令部	136

午前9時 某運動場

午前9時。とある運動場に5人の戦術人形達は集められた。

M16 「共同任務とは聞いていたが、まさかお前らとだとはな。」

UMP45 「ふふ。そんな怖い顔しないの。折角なんだし楽しみましょう?」

AR115 「そんなこと言ったってメンツがおかしいでしょ。そっちはあの寝坊助と色白のあいつが、こっちはSOPMODとROが居ないって。」

UMP9 「ま、考えても仕方ないよ!指揮官くれば全部わかるんだし。」

??? 「残念ながらそれはないわ!」

M4 「!? その声は!」

??? 「イエーイ!」

突如現れた馬が5人の頭上を通って着地する。

M16 「モシン・ナガン!」

〈青鹿毛に乗った謎の女 モシン・ナガン〉

ナガン 「同志諸君、ハラシヨール!」

UMP9 「ハラシヨール!」

M4 「は、ハラシヨ〜？」

ナガン 「いい返事ね！これからの過酷な任務を考えればそれぐらい元気な方が安心だわ。」

M16 「過酷な任務？」

AR15 「つまり貴女が指揮官に変わって任務を発表するわけね。」

ナガン 「惜しい！それじゃ半分正解ね。私はカリーナの代理で来たのよ。」

UMP45 「カリーナってあの守銭奴の？」

M16 「言葉選べよ。」

ナガン 「彼女は今回裏方に徹してもらおうわ。さて、一応聞いておくわ。この任務はさっき言った通り本当に過酷。途中で投げ出すことは出来ない代わりに今ここで降りる事は出来る。お咎め無しでね。どうする？」

M4 「どうするも何も。」

AR15 「ここまで来て尻尾巻いて帰ったらSOPMODに馬鹿にされるわ。」

M16 「任務後のジャック・ダニエルは美味いと相場が決まってるしな。お前らは？」

UMP45 「愚問ね。」

UMP9 「もちろん行くよ！楽しそうだし！」

ナガン 「ふ、みんな覚悟は出来てるみたいね。では、作戦コードを発表するわ！」

5人「……………」

ナガン「絶対に笑ってはいけないグリフィン指揮官養成所24時よ！」

M4「絶対に笑ってはいけない」

AR―15「グリフィン指揮官養成所」

UMP9「24時？」

UMP45「つて何？」

M16「……………」

M4「M16姉さん？ どうしたんですか？」

M16「、、、だ。」

M4「え？」

M16「これは罨だ！」

AR―15「粉バナナ？ あんた何言って…」

M16「帰るぞ！ この任務だけは命が幾つあっても足りない！」

UMP45「何貴女、今更怖気づいたの？」

M16「お前らは何も知らないからそんな事が言えるんだ！ 帰る！ 私は帰るぞ！」

(銃声)

銃弾「ピスッ！」

M16「(頬から血が垂れる。)

ナガン「百二十年ほど前、極東の島国の住人達はこう教育されたわ。敵前逃亡は死罪だ。」

一キ口先の森を指差すナガン。その先には奴がいた。

M4「あれは…Super SASS?」

〈サングラスの狙撃者 Super SASS〉

SASS「……。」(サングラス クイツ)

UMP45「初めから生かして返す気無いじゃないの。」

ナガン「早速説明するわ。貴女達にはこれから24時、グリフィンの指揮官見習として過ごしてもらうわ。」

M4(何事もなかったかのように?)

ナガン「ただし真の指揮官たる者、任務中にふざけるなど言語道断。笑った場合、きついお仕置きが待ってるわ。」

UMP9「45姉めちやくちや不利じゃん。」

UMP45「笑顔やめるぐらい出来るわよ。」

ナガン「ま、百聞は一見にしかずと言うし、あつちに用意された個室で相応しい格好に着替えてきて。更衣室から出た時点で始まりよ。」

M16 (バスじゃないのか?)

少女着替え中……………。

ナガン「さ、終わったかしら? それじゃ順番に出てきて!」

M4「はい!」

〈妹系サイボーグ指揮官 M4A1〉

ナガン「なかなか似合ってるわね。言い寄る男は星の数間違いナシね!」

M4「そ、そんな……………」

ナガン「次の人!」

AR15「今行くわ!」

〈英雄系貧乳指揮官 ST AR15〉

ナガン「ネクタイがアクセントね。」

AR15「みんな一緒にやつまらないでしょ?」

ナガン「どんどん行くわ。次の人!」

〈眼帯系 I LOVE ジャック・ダニエル指揮官 M16A1〉

AR15「眼帯赤に変わってる。」

M4「似合ってますよ。」

M16「帰りたい。」

ナガン「ダメよ。次の人！」

UMP9「はい！」

〈フアミリー系サイコパス指揮官 UMP9〉

UMP9「ちよつと胸キツイかな？」

AR―15「今度起きたまま寝言言ったその胸の脂肪むしり取るわよ？」

ナガン「ちよつとちよつと？バトル展開は勘弁よ？最後の人！」

UMP45「……………」

M4「あれ？出てこない？」

M16「出ましたよおきまりのアレが。」

UMP9「お決まりって？」

M16「見りやわかる。」

3人「？」

ナガン「こつちでカーテン開けちやうわよ？えいつ！」

UMP45「うう……………ぐすつ。」

〈唯一ロリの職場の癒し系指揮官 UMP45〉

M4「あれってこどもの日の時の。」

M16「やっぱり。」

UMP45 「うっ、うう。ぐすつくすつ。」

ナガン 「もうどうしたの？ 泣いてちやわかんないわよ？ 何があったの？」

AR-15 「完全に小学生扱いじゃん。」

M16 「まあ見た目が見た目だからな。」

UMP 「これ胸に入れろつて。」

〈特大メロンパンを二つ取り出す。〉

M4 「あー。これは…。」

AR-15 「……………」

M16 「ぶっ、フフ。」

UMP9 「ちょ、ま、待ってw それは反則www」

ナレーション 「M16 UMP9 アウト！」

UMP9 「え？ 嘘。」

M16 「来るぞ。」

AR-15 「向こうから砂埃あげて走ってくるのって」

M4 「SOPMOD?」

〈必殺ケツバッター M4 SOPMOD II〉

M16 「痛！」

UMP9 「ぎやっ!」

M4 「まさかお仕置きつて……」

ナガン 「ケツバツトよ。」

M16 「乗っけから最悪だ。」

ナガン 「さ、着替えも終わつた事だしバスで移動するわよ!」

M16 「はあ……。最悪。」

AR—15 「悪趣味ね。」

M4 「だ、大丈夫ですよ!なんとかなりますつて!」

しかし5人はまだ知らない。この先に数々の笑いの刺客達が待ち構えている事を。」

午前9時台　バス内にて

5人に乗せたバスは目的地に向かい出した。

UMP45「帰りたいよお。」

M4（こんな弱気な45初めて見た……。）

M16「もう諦めろ。腹くくれ。私達は地獄に落とされたんだ。」

UMP9「地獄って……。」

AR15「何が始まるってのよ………ん？バス止まった？」

M16「来たか。」

M4「来たかってまさか？」

M16「笑いの刺客達だ。」

AR15「笑いの刺客って……トンプソンとG11？」

〈セーラー服のレディース　トンプソン〉

〈学ランの不良男子　Gr　G11〉

トンプソン「西校の416との喧嘩、買ったってマジですかアニキ!？」

UMP45「あんたがアニキなの!？」

AR—15「……………これなんの茶番？」

UMP9 「さあ？」

G11「たりめえだろあの女、人をラムレーズン無きや動かないと思いやがって！」

M16「いや事実だろ？揺らぐことない事実だろ？」

トンブソン「だからってなんで買っちゃったんすか!?西校の416と言えば！切れたら手がつけれ無いいし、完璧主義者で失敗すればどんなに気に入ってた舎弟でも半殺しにするって評判じゃないですか！」

G11「何日和ってんだよ！あの完璧女昨日私に何つったか知ってるか！起きなかつたらラムレーズン全部捨てるって言いやがったんだぞ！私から昼寝とラムレーズン取ったな只の殺人マシーンだろ！」

M16「ラムレーズン呼び嫌なのか嫌じゃないのかどつちなんだよ！」

UMP9 「しかも全部事実だしww」

???「ツラア！G11テメエ！」

〈西校のスケバン H K 4 1 6〉

G11「来やがったなテメエオラア！」

H K 4 1 6「相変わらず寝坊助の蛙面晒してんなあ！よくそんなに堅気のころメイドなんてやってられたなあ！」

G11 「今関係ねえだろ！お前こそFive-seveNから聞いたぞ！昨日も悪酔いして暴れてめでたく出禁になったバーが3桁いったそうじゃねえか！」

HK416 「バーカウンターを粉碎したぐらいで出禁にする方が悪いんだよ！」

トンブソン 「マズいな、このままだと警察沙汰だ、その犬っぽい人！止めてくれよ！」

UMP9 「わ、私？」

AR—15 「これもしかしなくても全員」

M4 「あるでしょうね。」

UMP9 「仕方ないかあ、ちよつと2人とも？」

HK416 「うるせえファミパン！ファミパンはファミパンらしく髭生やしてから出直して来い雑魚！」

UMP9 「ツｗｗｗｗ」

UMP45 「ｗｗｗｗｗｗ」

AR—15 「ブツ……………w」

M4 「ふあみばん？」

M16 「知らないきや分かんねえよw」

ナレーション 「UMP9 UMP45 AR—15 M16 アウト！」

UMP9 「痛！」

UMP45 「ぐっ！」

AR—15 「ぎ！」

M16 「ガッ！」

HK416 「この前救援任務に行った先の指揮官に真顔で『この部屋にはいくつ盗聴器が仕掛けてあるんですか？』とか聞く様な奴が喧嘩を止めるなんざ二万年早いんだよ！」

UMP9 「えー？皆指揮官の部屋に盗聴器ぐらいしかけるよ。ね！」

M4 「いや、それは……………」

AR—15 「無いわよ。」

M16 「絶対無いわ。」

トンプソン 「なんだよまた振り出しじゃ無いか！そのチビ！その身長も胸もないチビこれ止めてくれよ！」

UMP45 「好きでやってんじやないわよ！」

M4 「www」

M16 「wwwwww」

UMP9 「だ、大丈夫！怒ってる45姉も小ちやい可愛いよ！」

AR—15 「……………」。(他人事じゃない)

UMP45 「ツツツツ！ちよつと2人とも！」

G11 「五月蠅えお子ちゃま！お子ちゃまはお子ちゃまらしくママの膝の上にも座つてろ！」

M16 「相手が自分より小さくなった途端に強気だなおい。」

M4 「もしかしくなくても皆日々の鬱憤を晴らしてるだけじゃ？」

G11 「今回この茶番のために各所にアンケートを配って暴露ネタを募集したけどな、お前だけ infinite DRAGON KNIGHTの前書きで共演したけど島ケイタつて奴からしか来なかったぞ！」

HK416 「いくら404小隊だからつってもな、人脈の無さにも限度つてもんがあるだろ限度が！」

M4 「うわあ。」

M16 「そりゃ酷いな。」

AR—15 「飲み友達もないわけ？」

UMP9 「45姉らしいと言えば45姉らしいけど……………」

UMP45 「何よ！友達居なきや人権ないの!？」

M16 「このご時世に人権も何もあるかよ。」

HK416 「で？結局やんのかやんないのかどっちなんだよ！」

G11 「やるに決まってるだろ！」

HK416 「よし来いよ！そのドブガエルに腐った稲荷頬張らせたみたいなのツラ、もつとメツタメタに破壊された顔面に生まれ変わらせてやるからよ！」

G11 「やってみろオラ！」

トンブソン 「まただよ！おいその人！その余り物の2人止めてくれよ！」

AR115 「あんたが余らせてたんでしようが！」

M16 「はあ、。おい2人とも」

HK416 「喋るな。あんたらレベルと絡む気ないわ。」

5人 「wwwwwwwwww」

ナレーシヨン 「全員 アウト！」

HK416 「たく、興奮めね。場所変えるわよ。」

G11 「上等だ。」

〈不良3人下車。バスが動き出す。〉

UMP9 「や、やっと終わった。」

AR115 「まだ訓練所についても無いのにもうお尻痛いわ。」

UMP45 「あんたらのこのSOPMOD。このボディ相手に容赦ないわね？」

M16 「そりやSOPMODだし。」

M4 「ごめんなさい。SOPMODに一般論は通じないの。」

ナガン 「こちらこちら。あんまり暗い顔しないの！着いたらまず訓練所の所長にご挨拶よ？第一印象は大事なんだから。」

UMP9 「まだなんかあるのお？」

UMP45 「そういえばまだ舞台にも着いてないじゃない。」

AR—15 「最悪ね。」

5人に乗せたバスは向かった。笑いの刺客達が待ち構える訓練会場に。

午前9時30分 所長室にて

5人に乗せてバスは目的地に到着した。

ナガン「さあ着いたわ！ここが貴女達の研修会場、GS—96地区中央司令部よ！」

M16「嫌だあ。」

M4「まだ本番じゃ無かったの？」

AR—15「嘘でしょ？」

UMP9「もう終わりでいいじゃん。」

UMP45「長い1日になるわね。」

ナガン「早速研修生待機室に、と行きたい所だけど、まずはここの最高責任者に挨拶してからにしましょうか。」

M4「最高責任者？」

ナガン「ええ。ここの戦線維持と新人育成を同時にこなすやり手のベテラン指揮官よ。くれぐれも失礼の無いようお願いね。」

AR—15「やり手の指揮官って」

UMP9「十中八九、ていうか確実に、笑いの刺客？だよね。」

へ一同エントランスに到着。へ

ナガン「まずは受け付けで一人一人登録を済ませて来て。」

M4「受け付け……彼女は？」

AR—15「ベレッタM9ね。」

へ人気者の受付嬢　ベレッタM9へ

ベレッタ「あ！ナガンさん！お帰りなの！」

ナガン「ああただいま。今丁度新人達が来てるので登録をお願いしようかと。」

ベレッタ「なるほどなの！任せるの！ささ！新人さん達！一列に並んでなの！」

へM16　UMP45　M4　UMP9　AR—15の順に並ぶ。へ

ベレッタ「お名前を教えて欲しいの！」

M16「M16A1です。」

ベレッタ「M16A1さん、と。……………ん？」

天の声「この時！ベレッタは思った！なんだこの眼帯女？なんでこんなモン着けてるのに周りの奴らはなんも言わないんだ？そうかわかった！こいつは厨二病、厨二病なんだ！厨二病に違いない！と！」

M16「……………」

M4「……………」

AR—15 「……………」

UMP9 「……………」

UMP45 「…………フフツ。」

ナレーション 「UMP45 アウト！」

UMP45 「痛あ！」

M16 「なんだったんだよ今の？」

AR—15 「思考が読まれてる？」

〈心の声が聞こえるエントランス。〉

ベレッタ 「次の人お願いなの！」

UMP45 「痛た、私か。M4、ちよつと持ち上げてくれる？」

M4 「え？は、はあ。よいしょ。」

ベレッタ 「あら、可愛らしい子なの！お名前は？」

UMP45 「UMP45よ。」

ベレッタ 「UMP45、と。…………ふーむ。」

天の声 「この時！ベレッタは思った！なんでこの小生意気にも悟つたみたいな目をした半端に知識つけたぐらいのガキが指揮官見習なんかやってるんだ？やったところでは戦果なんかたかが知れてるだろうに。…………分かった！モンペだ！モンペが見栄でコネ

を使ったに違いない!と!

UMP9 「モンペって……w」

ナレーション 「UMP9 アウト!

UMP9 「痛!」

M4 「えつと……。UMP45?」

UMP45 「降ろせ。早く。次あんたよ。」

M4 「あ、はい。私かあ……」

ベレッタ 「お名前は?なの!」

M4 「M4A1です。」

ベレッタ 「M4A1、と。……うーん。」

天の声 「この時ベレッタは思った!こいつ、びっくりするぐらい何も無い!ここまで

イロモノが続いた後だと拍子抜けだな。と!

AR—15、UMP9、M16 「wwwwww」

UMP45 「イロモノって何よイロモノって!」

ナレーション 「AR—15 UMP9 M16 アウト!」

AR—15 「いった!」

UMP9 「ぐっ!」

M16 「ガッ！」

ベレッタ 「次の人お願いなの！」

UMP9 「はい！UMP9です！」

ベレッタ 「UMP9、と。……………んん？」

天の声 「この時！ベレッタは思った！なんだこいつ？うまく言えないけどなんか：
パーツが足りない気がする。分かった！首輪だ！この餌を前にした自制心の無い子犬
みたいな面には首輪が足りて無い！と！」

UMP45 「アニメ、癒し系、ウツ！頭が、。」

M4 （なんだろう？……………思い出してはいけない何かが！）

M16 「UMP9が犬なら……………うちのSOPMODは子猫つてとこか？」

AR115 「知らないわよ。」

ベレッタ 「チツ！最後の人！」

AR115 「(舌打ち!) は、はい。」

ベレッタ 「お名前は？なの！」

AR115 「AR115です。」

ベレッタ 「AR115さん、と。ん？……………フツ。」

天の声 「この時！ベレッタはAR115の胸部を見ながら、胸部をマジマジと見なが

ら思った！勝ったな！と！」

AR—15 「……………。」（ブチツ）

UMP45 「！不味いナイン！そいつを取り押さえて！」

UMP9 「え!？」

M16 「ぼーつとすんな！手伝え！」

AR—15 の両腕を抑えるM16とUMP9

AR—15 「殺すう！殺してやる！こいつだけは今！今ここで殺す！殺すんだあ！」

M16 「落ち着けAR—15！仲間を殺したって何も始まらない！この任務が終わるわ

けじゃないんだ！」

AR—15 「黙れえ！任務とか成功とか知ったことかあ！」

M4 「AR—15がAR—15じゃない……………」

UMP45 「行きましょう。いつまでもここに居たって仕方ないわ。」

ナガン 「それもそうね！それじゃ、指揮官室に移動するわよ！」

〈AR—15を引きづりながら移動。〉

ナガン 「着いたわ。」

M4 「AR—15？落ち着いた？」

AR—15 「ええ。大丈夫よ。さつきまで自分を見失ってた気がするわ。」

M16 「まあ、戻ってこれただけ良しとするか。」

ナガン 「指揮官！新人5人をお連れしました。」

??? 「……………」

M16 「一体誰だ？」

UMP9 「身長低いしハンドガン？」

UMP45 「いや私みたいな場合も」

??? 「……………」(ガタツ！)

5人 「……………」

Gr MP5 「イエエエ〜イ!!」

5人 「!?」

〈有能指揮官 Gr MP5〉

Gr MP5 「キュツ!……………空前絶後のおオオ〜!超絶怒涛の有能指揮官!

有能を愛し、有能に愛された女!」

M16 「囁んだな。」

UMP45 「囁んだわね。」

Gr MP5 「世襲!高学歴!えつと、えつと、。全ての有能生みの親!そう 我こ

そはあああ!!!」

U M P 9 「ド忘れしてんじゃん。」

A R ー 1 5 「ちゃんと覚えて来なさいよ！」

G r M P 5 「低身長！体重軽！ 貯金残高265ダイヤ!!」

キヤツシユカードの暗証番号8931!! 財布は今 楽屋に置いてあります！ M 1
6さん、今がチャンスです!!」

M 1 6 「え？」

G r M P 5 「もう一度言います、 8931 『8931(はくさい)』 っ て覚えて

くださあぁーい!!!」

M 1 6 「プツ、クツ、、。」

U M P 9 「顔近w」

M 4 「フフツ。」

G r M P 5 「そう 全てをさらけ出した この私は！サンシャイーン G r っ

っ (ボコツ) M P 5 ー ー ー!!! イエエエっイ!!!」

ナレーション「M 1 6 U M P 9 M 4 アウト！」

M 1 6 「痛！」

U M P 9 「イッツ！」

M 4 「あつ！」

Gr MP5 「まだだ、。」

5人「？」

Gr MP5 「まだ私には足りない！失敗が！苦渋が！それを乗り越えてこそ真に一人前と言えるのに！」

AR—15 「まだ続くの？」

M4 「みたいね。」

魔法瓶のような物を取り出すGr MP5

Gr MP5 「これは！若さ崩壊液だ！これを浴びることで私は！若さを捨てて一人前になれる！」

M16 「戦術人形に若さとかあるのかよ？」

UMP45 「そのようだけど？」

Gr MP5 「いざ！」

部屋がスモークで満たされる。

M16 「エツホエツホ！みんな無事か!？」

AR—15 「なんとかかね！あんたは!？」

UMP9 「わかんない！あと2人は!？」

M4 「ここです！ん？なんだろう？なんかもちもちしてて柔らかいものが」

こそはあああ!!!」

M4「……………」。(笑いこらえて顔真っ赤。)

ヘリアントス「独身歴〓年齢! 貯金残高9610万ダイヤ!!」

キヤツシユカードの暗証番号は2741!! 財布は今 楽屋に置いてあります! M16、今がチャンスだ!!」

M16「いやww それはww」

ヘリアントス「もう一度言います、2741 『2741(ふなよい)』 って覚えてく
ださあぁーい!!!」

そう 全てをさらけ出した この私は

サンシャイーン ヘリ~~~~ (ボコツ) アン~~~~!!!」

UMP9「なんなのこの人ww」

ヘリアントス「イエエエ~~~~!! ジャステイス!!!」

〈サンシャイーンヘリアンダツシユで泣きながら退室〉

ナレーション「全員 アウト!」

M16「反則だろ。」

UMP45「誰よ考えた人?」

M4「泣きながらどこ行ったんでしょう?」

UMP9 「また合コンじゃない？」

AR15 「ブツ！ちよつとw」

ナレーション 「AR15 アウト！」

AR15 「痛あ！ナイン！」

UMP9 「ごめーん！」

ナガン 「さ、挨拶も済んだし次行くわよ。」

M16 「次って……………」。

UMP9 「もうやだー。」

そう、まだ終わらない。次なる刺客達は引き出しから現れる。

午前10時 新人待機室

指揮官に挨拶を終えた5人は次の場所に向かった。

ナガン「着いたわ。ここがあなた達が過ごす事になる新人研修室よ。」

M16「やつと座れる……。」

UMP9「お尻痛いよー。」

M4「まさかこの部屋にも?」

AR-15「あるでしょうね。そこの鍵ついでるロッカーとか。」

UMP45「勘弁してよ……。」

L字型に並べられた5つの机。それぞれに名前が書かれている。

ナガン「それではごゆっくり。」

退室して行くナガン。

M16「……誰から行く?」

AR-15「ナインあんたが行きなさいよ。」

UMP9「ええ? 私い?」

AR-15「さつき余計に笑ったのあんたのせいでしょ!」

UMP9 「…わかったよ。じゃあ、開けるね。」

一番上の引き出しを開けるUMP9

UMP9 「なんか封筒入ってた。」

〈謎の封筒〉

UMP45 「他の引き出しは？」

UMP9 「えっと、ない、鍵出てきた。」

〈謎の鍵 A B〉

AR—15 「一番下のやつは？」

UMP9 「鍵かかってて開かない。」

UMP45 「じゃあどっちから行く？」

UMP9 「ん〜。鍵から。ヤバイの来そうだし。」

AR—15 「AとBとどっちから行く？」

UMP9 「悩むなあ。じゃああえてBから！」

M16の背後のロッカーを開ける。

M16 「なんかデカイな。」

AR—15 「中何入ってた？」

UMP9 「これが人数分！」

M16 「ガスマスク？」

マスクを取りに行く一同。

M4 「別になんの変哲もなさそうだけど？」

すると突然UMP9の開かなかった引き出しから黄色い煙が上がる。

アナウンス「緊急事態！緊急事態！ただ今館内の何処かで暴徒対策用の激臭ガスが暴発！繰り返し！ただ今館内の何処かで暴徒対策用の激臭ガスが暴発！」

M16 「やばっ！みんなマスクマスク！」

慌ててマスクを装着する5人。

5人「……………」

アナウンス「現場を特定。ガスの排出処分を開始します。」

黄色いガスが排出される。

UMP45 「ぶはっ！危なかった。」

M4 「みんな平気？」

UMP9 「なんとか。あれ？AR-15？なんでマスク外さないの？」

AR-15 「……………」（無言で力任せにマスクを外す。）

〈AR-15のマスクにだけトリモチがついていた。〉

4人「wwwwwwww」

ナレーション「M16 M4 UMP45 UMP9 アウト！」

AR—15「……………」(無言で殺気を放つ)

UMP9「ごめん！ごめんって！痛！」

M16「ダァ！」

M4「きゃー！」

UMP45「顔洗って来なさいよ。先に他の済ませちゃうから。うっ！」

無言でSOPMOD達と出て行くAR—15

M16「あー、笑った笑った。ナイン、もう一個の鍵は？」

UMP9「Aのロッカーだね。こっちのが小さい。」

鍵を開けて中のものを見るUMP9

UMP9「wwwwww」

ナレーション「UMP9 アウト！」

UMP9「いったあ！」

M4「ナイン？一体なにが？」

UMP9「いやこれは反則でしょ？w」

〈M4の絶望顔マスク〉

M16 UMP45「wwwwwwww」

M4 「……………」。(物凄い顔でマスクを凝視している)

UMP9 「ちょw M4なにその顔ww」

M4 「……………」。(物凄い顔でマスクを凝視している)

ナレーション 「M16 UMP45 UMP9 アウト！」

M16 「ガア！」

UMP45 「イッタ！」

UMP9 「痛い！」

M4 「……………」。(物凄い顔でマスクを凝視している)

M16 「ナインナイン、ちよつと被ってみろよw」

UMP9 「え？w本気？w」

UMP45 「いいじゃんやんなよw」

UMP9 (マスク装着) 「どう？」

M16 UMP45 「wwwwwwww」

M4 「……………」。(物凄い顔でUMP9を凝視している)

ナレーション 「M16 UMP45 UMP9 アウト！」

UMP9 「待って待って笑ってない！見てよこの絶望に染まった顔を！」

M16 「ただのマスクだろ！痛い！」

UMP45 「イツ！」

UMP9 「痛い！」

M4 「……………」。(物凄い顔でUMP9を凝視している)

M16 「ナインそろそろ辞めよう。」

UMP9 「だね。」

マスクを脱いで引き出しにしまう。

M4 「……………」。(物凄い顔でUMP9を凝視している)

UMP9 「そ、そんなに見ないでよ悪かったよM4。」

M4 「次やったら脊椎を引き抜くわ。」

UMP9 「ヒッ！」

UMP45 (ほ、本気だ……………)

M16 (我が妹ながら恐ろしいぜ)

AR15 「うう……………酷い目にあったわ。」

M4 「あ、お帰りAR15」

AR15 「ただいま。もうナインは終わったの？」

UMP9 「この封筒が最後！何が出るかな？……………ブツw」

ナレーション 「UMP9 アウト！」

M 4 「その次が私で更に次がM16姉さん。最後にAR―15で。」

UMP 4 5 「まあいいけど。じゃあ、行くわよ?」

M 1 6 「なんか入ってる。」

UMP 9 「見えない。なにになに?」

〈謎の赤、黄、緑三色のボタン〉

AR―15 「それ以外は無いの?」

UMP 4 5 「無い。」

M 1 6 「まあナインが盛りだくさんだったからな。」

M 4 「間をとって?」

UMP 4 5 「にしてもボタンかあ。」

AR―15 「どれから押す?」

UMP 4 5 「押すの?」

M 1 6 「そりゃ押すだろ?」

UMP 4 5 「怖いなあ。じゃあ、黄色!」

唐突にTVの電源がつく。

M 4 「わっ!」

UMP 4 5 「え?なに?」

M16 「写ってるのって、ROとステン？」

〈謎の二人組 ステン MK-II RO635〉

RO 「それではやっていきましょう！知らないところでロシアンルーレット！」

2人 『アンラツキーダーツ！』 イェーイ！

M16 「なんか持ってきたぞ？」

M4 「あれは、ルーレット？」

UMP45 「なんか私達の名前書いてない？」

RO 「では、お願いします！」

ダーツを構えるRO

ステン 「了解！」

ルーレットを回すステン

RO 「ダーツの結果はAR-15でした！」

ナレーション 「AR-15 アウト！」

AR-15 「はあ!?!なんですよ！」

M16 「www」

ナレーション 「M16 アウト！」

AR-15 「イッタ！」

M16 「痛い！」

UMP45 「それじゃ次赤のを」

AR15 「いや待ちなさいよ。」

UMP45 「? なにがよ？」

AR15 「いやなにがよじゃないわよ！なにそれ！私だけやられ損じゃない！」

UMP45 「いいじゃん別に」

AR15 「良くない！」

M4 「落ち着いてAR15。もしあなたで固定だったら恥をかくのはあなたよ？」

AR15 「だとしても！」

UMP45 「仕方ないわね。そこまで言うなら、ポチツと！」

ナレーション 「AR15 アウト！」

AR15 「ぎっけんなあああ！」

M16 M4 UMP45 「wwwwww」

UMP9 「(素早くM4マスクをかぶる。)

ナレーション 「M16 M4 UMP45 アウト！」

UMP45 「ナインあんた今マスク被ったでしょ！イッタ！」

M16 「それは狡だぞ！アッグ！」

M4 「痛!」

AR—15 「このクソ野郎どもが!痛い!」

M4 「ナイン?私言ったよね?次やったら脊椎を引き抜くつて。」

UMP9 「被ってない!被ってないって!」

UMP45 「どうする?次やる?」

UMP9 「早く早く!」

M4 「よくもまあぬけぬけと。」

UMP45 「赤のボタン、ポチッと!」

Cのロッカー「ガチャ。」

M16 「なんか開いたな。」

AR—15 「開いたね。」

UMP45 「どれかしら?……………これね。」

??? 「ちよーつと待った!」

5人「!?!」

FF FNC 「皆さん聞いてください!」

〈食いしん坊四天王 FF FNC〉

FF FNC 「今朝から私がとつといた高級チョコが行方不明なんです!何か知りま

せんか!？」

M 4 「いえ特にそういつた話は聞いてませんが、みんなは？」

UMP 4 5 「全然。」

AR—1 5 「全く。」

FF FNC 「そうでしたか！何かわかったら知らせてくださいね！」

去つて行くFF FNC。

UMP 9 「行っちゃった。」

M 1 6 「なんだったんだ？」

Cのロツカー「ガタツ！」

AR—1 5 「なんか開いたわよ？」

M 1 6 「今度はなんだ!？」

5 6—1 式 「もう行つた？」

へ口の周りがチョココでベタベタの食いしん坊四天王 5 6—1 式

M 1 6 「お前、ずつとそこに居たのか？」

5 6—1 式 「うん今朝勢いでチョココ食べてから。」

UMP 4 5 「そ、そうなの。」

5 6—1 式 「じゃ、FNCが戻って来ないうちに」

M4 「えっと、召喚魔法？同封されてるカードを使う事で幸せの伝道師を召喚出来る。カードを使うには頭上に掲げて使用宣言をする。本当にやるの？」

AR-15 「使うしかないでしょ？」

M4 「じゃあ、使います！」

アナウンス 「召喚魔法が発動されました。お近くのドアから離れてください。」

M16 「ドア？」

UMP45 「てことは誰かが」

ドアが乱暴に開けられる。

SOPMOD 「ウウワオ！」

星条旗のタキシードとハットを身につけたSOPMODが登場。

SOPMOD 「ハッピーガール！ワオ！」

へハッピーガール M4 SOPMOD II

M16 「いや、そのw SOPMOD？」

SOPMOD 「ノー！今の私はハッピーガール！ワオ！」

M16 「いやなんだよハッピーガールってw」

SOPMOD 「よくぞ聞いてくれました！ハッピーガールとは！世のため人の為にせつせと鉄血のパーツでクリスマスツリー作ったりヤクの流通ルートを潰したりして

世をハッピーにする素敵なお仕事デス！」

UMP45 「要はグリフィンじゃない。」

SOPMOD 「それはさておきM4！よくぞ召喚してくれました！そんなあなたに
〜！ハッピーゲーム！出でよ！ハッピー軍団！」

G11 416 RO 「ウウワオ！」

へハッピー軍団 Gr G11 HK416 RO635

UMP45 「揃いも揃って何やってんのよ！」

UMP9 「アハ、アツハツハ！待って待ってお腹痛いわ！」

AR115 「ブツ、wwwwww」

416 「それじゃあ覚悟しなさい！早速ルール説明よ！」

M4 「は、はい！」

RO 「まずは私の持つてる三枚のカードから一つを選んでね！」

G11 「そこにはそれぞれ2019年にある極東の島国でノリに乗ってた芸人達の
名前が書いてあるよ。」

416 「あなたは選んだカードに書いてある芸人のモノマネをそのウルトラハッピー
ガスを吸った状態でやるだけ。簡単でしょ？」

M16 「いやその説明聞く限りSOPMOD要らないじゃん。」

UMP9 「たしかにw」

G11 「さー善は急げだ。さっさと選んじやつて。」

M4 「じゃあ、これ！」

RO 「来ました！小峠英二！」

416 「それじゃあお手本VTR！どうぞ！」

突然TVがつく。

G11 (画面の中) 「正しく今日は？」

カリーナ (画面の中) 「なんて日だ！」

AR—15 「そもそもSOPMODはやらないのね？」

UMP45 「本当になんで来たのよ？」

416 「はいそれじゃ吸って吸って！」

G11 「正しく今日は？」

M4 「なんで日だ！(普通の声) ……………え？」

RO 「ただの酸素！」

〈ウルトラハッピーガス＝ただの酸素〉

4人「wwww」

ナレーション「M16 AR—15 UMP45 UMP9 アウト！」

SOPMOD 「それではさよなら！ 皆さん今日も元気にい〜！」

4人 「ウウワオ！」

RO 「バイバーイ！」

G11 「元気でね」

UMP9 「痛い！」

M16 「イッタ！」

AR15 「アダ！」

UMP45 「ツタア！」

M4 「……………」 (俯いて顔真っ赤。)

AR15 「イタタタ。最後私か。」

UMP9 「やつと終わるよ！」

UMP45 「長かったあ！」

M16 「休憩らしい休憩全くやってないな。」

AR15 「ま、ここまで来たら後はなるようになるでしょ。中身は……………」

れだけみたい。」

〈謎のDVD〉

M16 「本当にそれ以外無いんだな？」

UMP9 「私がなんだって？」

M16 「いやお前は呼んでない。」

AR—15 「ともかくさっさと見て終わらせちゃいましょう。」

DVDを再生する。

??? (画面の中) 「……………」。

M4 「え!? 指揮官!」

AR—15 「あ! ホントだ。」

〈指揮官〉

UMP45 「なんか読んでるわね? 手紙?」

指揮官 (画面の中) 「日頃の感謝。なんて改めて口にするのはちよつと気恥ずかしいが、まあこういう場を設けて貰ったのは良かったと思う事にしよう。」

5人 「……………」。(真剣に聞いている)

指揮官 「思い返せば大変な日々の連続だった。鉄血のハイエンドを倒したと思ったら、別のハイエンドが現れて。それもどうにかしたと思ったら今度はお前が傘に感染して。あの後泣きじやくるSOPMOD慰めるの大変だったんだぞ? M16が1人で泣きながら飲んでるの見て、なんかたまたま通りかかってもらい泣きしちやったわーちゃんと一緒に無力感に苛まれてたんだぞ? 何が人間様だ、指揮官だ。本物の価値ある生命

だ。女の子の涙も拭ってやれないようなやつがそんな高尚なもんか！ってね。」

AR—15 「……………」。(心底すまなそうな顔をしている。)

M16 「見てたのかよ……………」

UMP9 「大変だったね。」

UMP45 「……………何泣いてんのよ？」

M4 「今思い出しても……………」

指揮官「居なくなつて始めて大きさに気付くなんてフィクションではよく聴いていたが本当にそうだったんだよな。俺の部下になつてからしばらくして、俺が落ち込んだ時あつたよな。実はあの時振られたんだ。四年ぐらい付き合つてた彼女とね。」

AR—15 「そうだったんだ。」

指揮官「あの後激励会とか言つて飲み会開いてくれたよな？あの時はTMPやAK—47 辺りが飲む口実に主催したのかと思つてたけど実は君が主動だったんだって？」

AR—15 「M4？黙つててつて言つたわよね？」

M4 「口が滑つちやつて。」

UMP45 「……………ナインあんた泣いてんの？」

UMP9 「だつて……………」

指揮官「おかげで色々吹つ切れたよ。今更だけどありがとう。戻つて来てくれて本当

指揮官「UMP45今にもっと酷い目にあう。」

UMP45「嘘でしょ？」

突如部屋に全身タイトの男達に拉致られるUMP45

UMP45「待つて待つてホントに待つて！嘘でしょ！助けて皆ー！」

UMP9「45姉ー！」

M16「おいおい今度はなんだよ？」

ナガン「我が訓練所が誇る絆強化訓練よ。」

M4「絆強化訓練？」

ナガン「さあ！今から移動よ！仲間を助けにね！」

午前11時 バス内にて

4人はUMP45救出に向かう為バスに乗り込もうとしていた。

ナガン「皆行くわよー。あれ？あなただけ？他の3人は？」

M16「AR―15は快速修復。M4とナインは付き添いだ。ほら。」

2人に両側から支えられながらAR―15がやってくる。

ナガン「揃ったわね？それじゃあ行きましようか！」

4人が乗りおえるとバスが発進した。

M16「……………」

M4「……………」

UMP9「……………」

AR―15「……………」(虚な目で虚空を見つめている)

M16「なあナイン？」

UMP9「え？何？」

M16「404でも、こいうゆう事あるのか？」

UMP9「いや何言ってるの？こんな種類の地獄そうそうないよ？」

M16 「いやそつちじゃなくて今のAR―15みたいな事のことだ。」

AR―15 「……………」。(虚な目で虚空を見つめている)

UMP9 「…………いや、無いけど、たまに416が無理してんのかな？つて思うことは、有るかな。」

M16 「あいつはスティックなところ有るからな。」

M4 「404の皆といて楽しい？」

UMP9 「そりやもちろん！家族みたいなもんだしね。」

M4 「そつか。じゃあ45を絶対助けないとね。」

UMP9 「うん！」

M16 「！ 気を付けろ！バスが止まった！誰か乗ってくるぞ！」

M4 「あの2人はM1911にFF FP9？」

〈2人組の女学生 M1911とFF FP9〉

M4 「なんで2人もセーラー服？」

M1911 「大丈夫だって！FP9なら絶対受かるって！」

FP9 「でも自信が……………」

M1911 「そんなに不安ならここで練習する？やる事は決まってるんですよ？」

FP9 「はい、名前と出身と好きな俳優、後好きな映画。最後に自由演技です。」

M16 「演劇のオーディションってことか？」

UMP9 「多分ね。」

M1911 「じゃあやってみてよ！」

FP9 「はい！FF FP9！神奈川県！松山ケンイチ！レミゼラブル！……………どうかな？」

M1911 「んー…もう少し奇を銜つてもいいんじゃない？」

FP9 「奇を銜う……………分かりました！FF FP9！神奈川県！アーノルド・シユワルツエネツガー！ランボー2！」

M16 「……………」

UMP9 「……………」

M4 「ふふふ。」

ナレーション 「M4 アウト！」

M4 「痛い！」

UMP9 「ターミネーター幾つが好き？」

M16 「2だけど、周りが言うほど3やジエネシスが悪いとは思わん。」

UMP9 「そうか、そうか。私はやっぱり無印かな？」

M1911 「せっかくだし自由演技も練習しとこつか？」

AR—15 「……はっ。」

M1911 「ちよつとちよつと！一般の人だよ！」

FP9 「あ、す、すいません！」

M1911 「ささ、行こ？」

ハンドガン2人が下車し再びバスが動き出す。

M16 「訓練前にもう疲れたわ！」

UMP9 「最悪ー！」

M4 「今更だけど全く趣旨がわからない！」

AR—15 「本当に今更ね。」

そうしてる間にも着実に4人を乗せたバスは地獄に向かっていった。

午前11時30分 訓練場にて

ジャージに着替えた4人は広いグラウンドに集められた。

M16 「よくこんなところ借りられたな。」

AR—15 「いかにも怪しい黒いステージみたいのとかもあるし。」

UMP9 「今度は何やらせるつもり？」

M4 「不安しかない。」

ナガン 「もう！みんな暗いわねえ。そんなんじや助っ人ちゃんと仲良くなれないわよ？」

AR—15 「助っ人？」

ナガン 「ええ。今までの試練で疲れてる上に45が欠けちやつたからね。だからあなた達も見ただけで元気になるような可愛い子を連れてきたわ！出よ！」

黒いステージの扉から煙と共に誰かが出てくる。

M4 「あれって……………」

デストロイヤー 「……………」 (もう半泣き)

〈助っ人ちゃん デストロイヤー (鹵獲機)〉

UMP9 「うわあ……………」

M16 「気の毒になあ。」

ナガン 「さて。それじゃあこの絆強化訓練について説明するわ。」

デストロイヤー 「え？何？何されるの？」

ナガン 「今からこの訓練場に鬼が放たれるわ。この鬼に捕まるとキツツイお仕置きがあるから注意してね？ただし、この訓練の間は笑っても大丈夫よ。」

M16 「そうじゃなきや割に合わんよ。」

AR-15 「それで？何をもってこの訓練は終わりな訳？」

ナガン 「もちろんUMP45の救出よ、彼女は今この施設の何処かに監禁されているわ。それを見つけて出し、拘束を外して自由にする事が勝利条件よ。ただもたもたし過ぎないでね？鬼は時間経過で増えていくから。それじゃあと5秒でスタートよ！」

M4 「ご、5秒!？」

M16 「ボーツとするな！散れ散れ！」

黒いステージから1人の黒い全身タイツが現れる。

デストロイヤー 「な、何で私の方に!？」

鬼 デストロイヤーをロックオン。

UMP9 「なんか鬼のお腹に字が書いてあるよ？」

M 4 「えーっと、スリッパ？」

デストロイヤーを跪かせる鬼

デストロイヤー「何？何するの？いったあ！」

脳天をスリッパで殴打された。

U M P 9 「痛そー。」

M 1 6 「ようこそ新入り。」

A R — 1 5 「こんなのまだ通過儀礼よ。」

デストロイヤー「うう……うう。」

M 4 「な、泣かないで。こっちまで泣きたくなってくる……。」

M 1 6 (こんな調子で大丈夫かよ？ていうか45は今何処にいるんだ？)

その頃、どこかのU M P 4 5は

U M P 4 5 「……………」

暗い部屋で十字架に拘束されている。

U M P 4 5 「……………暇ね。」

アナウンス「訓練開始から10分経過。鬼、増員します。」

グラウンドにて

A R — 1 5 「ねえ。」

デストロイヤー「!」ビク!

ARR15 「そんな怖がらなくていいわよ。一応いまは仲間だし。」

デストロイヤー「……………」

ARR15 「なんか見つけた?」

デストロイヤー「ブンブン」

ARR15 「そう。ってヤバ!来てる来てる!」

デストロイヤー「え?」

ウルトラステイツク鬼「!」

デストロイヤー「ちよ、ちよつと待って!きやあ!」

焦って盛大に転ぶデストロイヤーをロックオン。

ARR15 「あーもー!」

戻ってデストロイヤーを立たせながら走る。

ARR15 「はあ、はあ。なんとか巻いたわね。」

デストロイヤー「あの……………」

ARR15 「何?」

デストロイヤー「ありがとう。」

ARR15 「!」ふふ。どういたしまして。行こっか?」

デストロイヤー「うん。」

一方、屋内の3人は

UMP9「この部屋はなんもなさそう。」

M4「こつちも！」

M16「またハズレか。次行くぞ。」

UMP9、M16、M4の順番で外に出る。

??? 鬼「！」

背後の鬼を察知し、真っ先に逃げるM4。

M16「M4? て! 来てる来てる！」

UMP9「え? 嘘！」

鬼、UMP9をロックオン。

UMP9「なんて書いてある!？」

M16「足かせ！」

足かせ鬼「！」

UMP9「捕まったあ! M4酷いよ! 来たなら来たって言ってよ！」

M4「……………」
「プイ

M16「こいつ……………」

UMP9 「笑ってはいけないルール復活したら覚えとけよ！」
外に連行されるナイン。

AR15 「あれ？なんかナイン捕まってる？」

デストロイヤー 「ホントだ。」

UMP9 「……………」

ナイン、超巨大足かせをつけられる。

M16 「また、凄えの来たな。」

AR15 「直径がデストロイヤーの身長ぐらいあるじやない。」

デストロイヤー 「しかも鈴が入ってるせいで動く度に音が……」

M4 「近寄らないで鬼が出るわ。」

UMP9 「……ねえ、置いてかないですよ？M16。なんで逃げるの？AR15、デ

ストロイヤー。私達友達だよ？ねえ！」

全員から避けられるナイン。

AR15 「私らこのまま外探すから。」

M16 「気をつけろよ。」

UMP9 「ねえ待ってよ！ねえってば！」

アナウンス 「訓練開始から20分経過。鬼、増員します。」

屋内A棟1階にて。

M16 「なあ、M4。この道塞いでる黒い塊って」

M4 「ナインでしょうね。」

UMP9 「……………」

ナイン、突然2人を通せんぼ。

M4 「？ ! M16姉さん！敵が来てる！」

M16 「なに！おいナイン通せ！」

スリツパ鬼「！」

ケツバット鬼「！」

UMP9 「うるせえ！」

M16 「ぎけんなテメエイツタア！」

M4 「いったい！」

スリツパとケツバットを同時に喰らう2人

M16 「お前ナイン食らっちゃっただろう！」

UMP9 「くらってないだろ！」

M4 (ん？ナインの背後に……………ミサイルボウガン？)

ミサイルボウガン鬼「……………」

無言で足かせを固定して逃げ場を奪うM4

M16 「いやくらってんだよ！」

UMP9 「うるさい！私だつて食らったんだ！」

ミスイルボウガン鬼「……………」カタヲポン

UMP9 「……………うわああああ！はなせえー！」

足かせを外され連行されるナイン。

AR—15 「あれ？何またナイン捕まってる。」

デストロイヤー「厄日ね。」

AR—15 「こんなところにいる時点で全員よ。」

十字架に固定されるナイン。

UMP9 「何！なんなのミスイルボウガンって！」

背後の壁の装置が動きナインを覆うように四つの風船が膨らむ。

UMP9 「嘘嘘！待つて待つて！私こうゆうの無理なの！やめて！ちよつと！」

限界まで膨らみナインの姿が見えなくなつたところでクロスボウを持った4人の鬼が登場。

M16 「すごい来るぞー。」

AR—15 「みんな耳塞いで！」

風船1 「パン！」

風船2 「パン！」

風船3 「パン！」

風船4 「パン！」

UMP9 「……………」

4人 「wwwwwwwwwwwwwwwwww」

AR-15 「大丈夫？」

M4 「人を売るからこうなるんですよ。」

M16 「M4お前……………」

デストロイヤー 「あれ？なんか紙落ちてる。」

M4 「なんて書いてある？」

デストロイヤー 「『UMP45はB棟3階にいる。』だって。」

M16 「もしかしてこれ風船割れて出てきたのか？」

AR-15 「ナインあんたファインプレーじゃない！」

B棟に急ぐ5人しかし道中にも奴らはいる

アナウンス 「訓練開始から30分経過。鬼、増員します。」

正午 B棟前にて。

5人はB棟にたどり着いた。

AR—15「で？三階なんだっけ？」

デストロイヤー「はい。でもどの部屋までかは書いてなくて。」

M16「ま、そんなに広くもないしすぐ見つかるだろ。」

三階に移動する5人。

M4「ドアが4つ。」

UMP9「待ってて45姉！」

ナイン、真っ先に左端の扉へ。

???鬼「！」

扉から鬼出現

M4「痛！ちよつとナイン！」

M4の足を踏んで逃げるナイン

M16「M4が捕まったぞ。」

AR—15「あんだだけ人を売つといたにしちや軽いでしょ。」

デストロイヤー「なんて書いてある？」

AR—15「ウルトラステイック。」

一階まで連れて行かれるM4、一本の棒を持たされる。

M4「これで何を？え？回れって？」

目が回るまでやらされるM4

M16「まさかフラフラになるだけ？」

UMP9「いや待って鬼がなんか新しい棒を」

M4の尻に先端を構える鬼

ウルトラステイック鬼「！」ドス！

M4「イッタア！」

M16「そんだけ？」

UMP9「なんだよそれ！今までの悪行に比べて罰が軽いじゃん。」

101匹ワンちゃん鬼「！」ナインノカタヲポン

UMP9「……嘘でしょ！嘘でしょなんで私ばっか！」

部屋に引き摺り込まれるナイン

AR—15「とことんいじられキャラね。」

M16「だなあ、て今度はまたとんでもないのが来たな。」

UMP9 「……。」

101個の犬の風船を付けたナインが登場。

UMP9 「何これ？」

AR—15 「101匹ワンちゃんでしょ？」

UMP9 「だからって本当に101匹付ける!？」

M4 「ついて来ないで、鬼が犬を辿ってくるわ。」

デストロイヤー「M4は多分ドリーマーより怖い。」

AR—15 「違い無いわね。」

アナウンス「訓練開始から40分経過。鬼、増員します。」

再び三階に移動

AR—15 「鬼が出てきた扉は…なんも無いわ。」

M16 「じゃあ残り三つか。」

M4 「じゃあ一番左端は…!」

スペシャルショー鬼「!」

M4 「不味い!」

M16 「嘘だろ!?!ナイン早く退け!」

AR—15 「犬が階段を塞いでる!」

デストロイヤー「早く退いてよ早く！」

UMP9「退かせるんなら自分でどかしてやるわよ！」

M4捕まる。一同は体育館に連れて行かれた。

AR-15「何が始まるのよ？」

UMP9「すいませーん！この犬ドアに引つかかっちゃったんですけどー！」

M16「そこで見てろ！」

4人が席につき、スペシャルショーが始まった。

春田「ようこそ私のスペシャルショーへ！」

〈スペシャルマジシャン スプリングフィールド（ハロウィンスキン）〉

M16「そう来たか。」

M4「てつきりお昼ご飯作ってくれるのかと。」

AR-15「それはそれで油断ならないわね。」

デストロイヤー「誰？」

春田「今回はこちらのスキットルを触媒にさる大物を召喚したいと思います！」

UMP9「さる大物？」

春田「では参りましょう！ルパッチマジックタッチゴー！ルパッチマジックタッチ

ゴー！」

M16 「やめろ怒られる！」

春田 「チヨローネ！サイコー！」

触媒を置いた台から白煙が噴き出る。

??? 「……………」

M16 「誰だ？」

AR—15 「…全身タイツを着てるってことは、…。」

TMP (酔っ払い) 「っしやけたぜオラア！」

〈江頭2：50 TMP (酔っ払い)〉

M16 「逃げろ！」

AR—15 「全然2時50分じゃ無いじゃないの！」

デストロイヤー 「言つてないで早く！」

江頭、M4をロツクオン。

M4 「な、なんで？ナインでいいじゃない！」

UMP9 「私でいいって何!？」

3人 「wwwwwwww」

TMP 「来たぜ来たぜ来たぜ！エガちゃん祭りがあ！さあ！行くぜ行くぜ行くぜ！」
スキットルを一気に煽るTMP。口に含んだ墨汁をM4の顔に噴射。

4人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

M4「……………」

TMP「またくるぜエ〜！」

退散していく春田と江頭2：50

UMP9「あく胸がスツとした。」

M16「天罰だな。」

AR―15「良かったわね毒霧とかじゃ無くて。」

デストロイヤー「ハンカチ使います？」

M4「……………」

無言でハンカチを使い顔を拭くM4

M4「いこっか。」

UMP9「ま、待ってこれ犬外れないんだけど？」

M16「待ってるど鬼増えるから先に行くぞ。」

AR―15「三階にいるから。」

UMP9「え!?!待って？嘘だよね置いてかないよね!デストロイヤーは良い子だから置いてかないよね!」

デストロイヤー「え、えつとお…。」

M4 「デストロイヤー、あなたは道を塞いで仲間にお仕置き2連チャンをやらせる敵を信用するの?」

M16 「酷いブーメランを見た。」

AR—15 「全くだわ。」

デストロイヤー 「…ごめんなさい。」

UMP9 「ざっけんな! 所詮は薄汚い鉄血のクズかあ!」

M16 「豹変早ww」

AR—15 「嫌になるこの企画、AIが丸分しょうねかりじゃない。」

UMP9 「おい待て! 待て裏切り者どもお! 末代まで崇つて殺るううう!」

4人を入れ替わるように体育館に入つて行くスリツパ、ケツバット、ハリセン、ウルトラステイツク鬼。

UMP9 「待って! 落ち着いて! いま三階に叩き甲斐のある人達が! 痛い痛い痛い痛い!」

4人は三階に向かった。

M16 「何回上り下りしてるんだろぅな?」

デストロイヤー 「良い加減疲れた…。」

残るドアは二つ。

M16 「AR—15、せえので開けないか？」

AR—15 「ま、それが一番合理的ね。M4、デストロイヤー。なんかあつたら直ぐに逃げるのよ。」

デストロイヤー 「は、はい！」

M4 「M16 姉さん、AR—15、ありがとう。2人の事は忘れないわ。」

AR—15 「あんたそろそろ引つ叩くわよ？」

幸いどちらからも鬼は出て来なかった。

M16 「こつちみたいだな、おい45！」

UMP45 「う、うーん：M16？」

M4 「今外すわね。つて嘘でしょ？」

AR—15 「何？どうしたのよ？」

M4 「この十字架、南京錠が付いてる。」

デストロイヤー 「まさか、鍵を探さないとダメなの？」

M16 「ここまで来て嘘だろ？」

AR—15 「泣き後と言わない！こうなつたら意地でも見つけてやるのよ！行くわよ！」

ナインの元に向かい、犬風船を引きちぎつて救出すると5人は鍵を探すために散ら

5人は疲弊していった。

グラウンドにて

M16 「一向に出て来ねえじゃねえか！」

AR-15 「鍵なんて本当にあるの？」

UMP9 (スター) 「ほら早く探しなさい下民ども！」

デストロイヤー 「す、すいません。」

M4 「どうします？そろそろ一時間ぐらい経つ、来た！」

M16 「散れ散れ！」

AR-15 「なんて書いてあった!？」

デストロイヤー 「キケン！」

キケン鬼 「！」

キケン鬼、M4をロックオン。

M16 「捕まったぞ！」

UMP9 「キケンって何？」

AR-15 「抽象的過ぎて怖いわね。」

突如グラウンドに真つ赤なスポーツカーが侵入。

57 「ヤッホー！皆んな元氣!？」

〈スポーツカーのドライバー Five sevenN〉

57 「皆は私が可愛いもの大好きなのは知ってるよね？」

デストロイヤー「…」

AR—15の背後に隠れて震えている。

UMP9 (AR—15もしかしてき?)

AR—15 (ええ、この子あいつに鹵獲されたみたいね。)

57 「同時に私はそんな可愛い物が酷い目に遭うのも大好きなんだ！さ、M4。行きましょう。きつと楽しいドライブになるわ。」

フロント部分に固定されるM4

57 「それじゃあくレッツゴー！」

蛇行運転しながら猛スピードで走り出す車。行く先々で火柱が上がる。

M4 「うわあああああああああ！あああああああ！」

Uターンしながらも同じような火柱を抜けてくる。

UMP9 「あれは怖いなあ。」

AR—15 「明日は我が身かもね。」

M4 「うわあああああ、うわあああああああああああああああ！」

最後に超特大25m火柱に包まれるM4

UMP9 「うわあ……………」

M16 「凄いな、最後のキノコ雲になってるぞ。」

AR15 「人を売るからこうゆう目に遭うのよ。」

M16 「M4？ありやりや泣いてるよ。」

UMP9 「M4ごめんなさいは？」

M4 「ごめんなさいい…。」

ナガン 「皆お疲れ様。鬼ごっこは終わりよ！」

UMP9 「終わり？そりやまた何で？」

ナガン 「十字架の拘束具の鍵なんだけど、間違つて私が持つてたみたいで。」

AR15 「ちよつと嘘でしょ！」

M16 「完全に無駄骨じゃんか！」

AR15 「何よそれ？」

デストロイヤー 「別に私いなくても…。」

訓練開始から50分。鬼ごっこは終わりだが、グリフィン24時はまだ終わらない。

午後12時半 新人待機室にて

一同は無事司令部に帰還した。

M16 「疲れたー。」

AR—15 「絆強化どころか人間不信になりかけたわよ。」

M4 「二度とやりたく無い。」

UMP45 「深く聞かないでおくわ。」

UMP9 「それに走り回ってお腹すいたー。」

ナガン 「安心して、待機室にお昼ご飯置いといたから。」

UMP9 「ホント? やったー!」

ナレーション 「UMP9 アウト!」

UMP9 「待つて待つて今の無し今の無しでいったあ!」

4人 「……………」

待機室に到着。

ナガン 「それじゃあごゆっくりー」

それぞれ席に着く。何故か机の上に全員蓋の付いた銀のトレイが置かれている。

UMP45 「ん？なんか手紙が置いてある。」

UMP9 「手紙？私のところには無いけど、AR—15は？」

AR—15 「ない。あんたらも？」

M16 「無い。」

M4 「無いわ。」

AR—15 「読んでみてよ。」

UMP45 「どれどれ？皆さんに用意したお昼ご飯は笑った回数に応じて豪華さが違います。笑ってない真面目な人ほどいい料理が出されます。ちなみに順番は以下の通りです。一位 AR—15（10回）二位 M4（11回）三位 UMP45（15回）四位 UMP9（20回）五位 M16（21回）。PS引き出しの中身はリセットされています!？」

M4 「嘘でしょ!？」

M16 「最悪だ!！」

UMP9 「もー!もー!！」

AR—15 「……………」。（ああ、またタイキックが来るんだなと悟った目）

UMP45 「…と、取り敢えずお昼食べよつか。」

M16 「そ、そうだな。誰から行く?」

AR—15 「無難に三位からいかない？」

UMP9 「た、確かに！三位だし落胆する様なことは無いよね？」

UMP45 「じゃあ、私から……………」。

銀のトレーを開けたまま固まるUMP45

UMP9 「よ、45姉？」

AR—15 「な、何が？」

無言で弁当を見せるUMP45

〈三位の昼食 ELIDのキャラ弁〉

UMP9 AR—15 「wwwwwwww」

M16 「…………」（頑張って表情筋を動かし続ける。）

M4 「w…………ハハハ！」

ナレーション「UMP9 AR—15 M4 アウト！」

UMP9 「痛い！」

AR—15 「いっつ！」

M4 「ああ！」

M16 「そう来たか。」

UMP9 「味はどうなの？」

UMP 4 5 「うん、普通よ？」モグモグ

AR—1 5 「にしては不味そうに食べるわね仕方ないけど。」

M 4 「これ、最下位とかどうなるんでしょう？」

M 1 6 「ホントだよ……。」

UMP 9 「逆にそつちは期待が高まるよねー」

AR—1 5 「まあね。」

UMP 9 「じゃあ、逆に最下位から行かない？」

M 1 6 「私からか？まあいいが。」

銀のトレーを開けるM 1 6

M 1 6 「こう来たか。」

〈五位の昼食 丸ごと茹でたブロッコリー〉

AR—1 5 「最早食べれるだけで食事じゃ無いわね。」

UMP 4 5 「これよりは不快な気分になら無いわよ。」

M 1 6 「そうだけど落ち込み具合はそう変わらねえよ。」

UMP 9 「次私かあ、怖いなあ……。」

AR—1 5 「4 5より酷くてM 1 6 よりマシ……。」

M 4 「想像つかないわ……。」

AR—15 「おお！」

UMP9 「納得いかない！」

UMP45 「二位と三位のこの差は何よ！」

M16 「貴様裏切ったな！」

AR—15 「ちよつとM4。私を盾にしないでよ。」

M4 「だって……。」

UMP9 「ほら次はAR—15の番だよ？」

M16 「おら遠慮するな。早く私達を嘲笑えよ。」

UMP45 「それでケツバツト食らえばいいわ。」

AR—15 「たかが人形の昼食よ？ 大方チーズバーガーとかそんなんよ。」

〈一位の食事 超豪華ステーキランチ〉

AR—15 「え！ 嘘！ やったあ！」（満面の笑み）

ナレーション 「AR—15 アウト！」

AR—15 「いったあ！」

UMP9 「……………」

UMP45 「……………」

M16 「……………食べよつか」

M4 「え、ええ。いただきます。」

UMP45 「……………」モグモグ

M16 「……………」ムツシムツシ

M4 「……………」モキュモキュ

AR—15 「うふふふ」ムツシヤムツシヤ

ナレーション「AR—15 アウト！」

AR—15 「痛い！」

UMP9 「クツチャクツチャ…………ウエエ！」

4人「wwwwww」

ナレーション「UMP45 M16 M4 AR—15 アウト！」

M16 「いてえ！」

M4 「きやあ！」

UMP45 「痛！」

AR—15 「あああ！」

一時間後

5人「……………」

M16 「誰から行く？」

UMP9 「AR—15 行きなよ。」

AR—15 「ランチの順番につて事？まあいいけど。…一番上、うわあ。」

〈謎のDVD〉

UMP45 「他にはないの？」

AR—15 「他には、なんかダイヤが入ってた。」

〈500ダイヤ〉

M16 「本物か？」

AR—15 「ほい。他には、無いわ。」

すると突然TVの電源が付く。

ナレーション 「世の中にはどんなに後ろ指を刺されようと挑戦者を続ける者がいる

……。」

M16 「なんの話？」

M4 「さあ？」

ナレーション 「今日紹介するのはこの男、タイキックボクサー。」

AR—15 「……………」

M16 「うわすげえ顔。」

M4 「一瞬で死人みたいな顔に！」

ナレーション「そのチャレンジとは、アイスタイキックチャレンジ！」

UMP45「どうゆう意味？」

UMP9「さあ？」

ナレーション「百聞は一見にしかず。まずはご覧あれ。」

画面が切り替わり無防備に歩くM1918の背後に氷が並々入ったバケツを持ったタイキックボクサーが迫る。

AR―15「まさか…。」

M1918「え？ぎやああ冷たい！いっだあああああ！」

頭から氷をかけられ驚く間も無くタイキックをくらわされる。

タイキックボクサー「ツギ！ダレシメイスル？ツギ！ダレシメイスル？」

M1918「ゆ、UMP9！」

UMP9「はあ!？」

3人「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「M16 M4 AR―15 アウト！UMP9 アイスタイキック

チャレンジ！」

タイキックボクサー「（無言でポーズを取る）

UMP9「え、AR―15 じゃないの？ま、まってあああああああ！いつぎやあ

ナレーション 「UMP45 AR―15 M4 アウト！」

UMP45 「阿鼻叫喚つてこの事ね！」

M4 「これ鉄血と戦うより辛い！」

AR―15 「いつ終わるのこの地獄！」

午後13時半 新人待機室にて

AR—15の引き出しからは500ダイヤとDVDが出て来た。

AR—15「いやな予感しかない。」

M16「あー痛たた。帰ったらヤケ酒だ畜生。」

UMP9「痛い…痛いよう…。」

再び勝手にTVがつく。

5人「!？」

カリーナ（画面の中）「こんにちは！GSショッピングのお時間です！」

〈タカ○的な人 カリーナ〉

カリーナ「今回紹介する商品はこちら！タイキックサポーターまでもるくんです！」

UMP45「あの守銭奴、またえらい無駄なものもって来たわね。」

カリーナ「皆さんは街中で突然タイキックボクサーにタイキックをされた経験はあり

ますか？」

M4「ぶっw」

M16「ある訳ないだろそんなの。」

ナレーション「M4 アウト！」

M4「痛い！」

カリーナ「これはタイ人キックボクサーからお尻を守ってくれる素敵な商品です！」

UMP9「あのタイ人だったの？」

M4「みたいね。」

カリーナ「使い方は簡単！お尻に装着してタイキックがくるタイミングで紐を引くだけ！エアバッグが飛び出てキックの衝撃を吸収してくれます！」

M16「紐間に合わなかったらどうするんだよ？」

UMP9「上手く言えないけどG11が喜びそう。」

UMP45「たしかに」

カリーナ「喜びの声もあります！」

〈利用者 M1895〉

M1895「わしほどの老兵になると気になってな。コイツをつけておると守られる感じがして血圧が下がるんじゃないよ。」

M16「www」

ナレーション「M16 アウト！」

M16「あだ！」

カリーナ「タイキックサポーターももるくん！お値段なんと送料込みで500ダイヤ
！たつたの500ダイヤです！今すぐお電話を！」

M16「どうする？」

AR—15「まあ、買えって事みたいだし、あぶく銭だしさつさと使っちゃうわ。」

部屋にある固定電話に画面に出ている電話番号をいれるAR—15

オペレーター「お電話ありがとうございます、GSショッピングです。」

AR—15「あの、さつきCMやってたももるくんってやつを注文したいんですけど

？」

オペレーター「かしこまりました。お名前と希望カラーを教えてください。」

AR—15「カラー？例えばどんなのが？」

オペレーター「スタンダードなブルーがオススメですが？」

AR—15「じゃあそれで。名前はAR—15で。」

オペレーター「はい、かしこまりました！」

通話を終わるとすぐに商品が届いた。

〈配達員 スコーピオン〉

スコーピオン「こんにちは！GSショッピングです！AR—15さんにお荷物です

！」

AR—15 「あ、お疲れ様です。」

スコープオン 「こちらら早期購入特典です！ありがとうございます！—」

500ダイヤを受け取り去って行った。

M16 「取り敢えず付けてみたら？」

AR—15 「ええ。」

UMP9 「おー！」

UMP45 「サイズピッタリね。」

M4 「特典の方は？」

AR—15 「何これ？卓上扇風機？」

スイッチを押してみる。羽が回ると赤いAR—15タイキックの文字が浮かび上がった。

4人「wwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「AR—15 タイキック！M16 M4 UMP9 UMP45 ア

ウト！」

UMP9 「大丈夫今回はまもるくんあるから！」

タイキックボクサー」（無言でポーズを取る）

AR—15 「よし今なら！」

A R—15 「いるかそんなもん買う奴！」

M 1 6 M 4 U M P 9 「w w w w w w w w w w」

ナレーション「M 1 6 M 4 U M P 9 アウト！」

M 4 「きやあ！」

M 1 6 「痛！」

U M P 9 「痛い！」

A R—15 「さつさとちゃんとしたのもってこい！」

オペレーター「申し訳ございません。すぐに代替品をお持ちいたします。」

スコープオン「お待たせしました！GSシヨツピングです！こちら代替品とお詫び

の品になります。それでは。」

新しいまもるくんとお詫びの品（コイン）を置いて去って行くスコープオン

M 1 6 「早。」

U M P 4 5 「まあここにいたら八つ当たりされそうだしね。」

A R—15 「たく、酷い目にあつたわ。」

U M P 9 「あとはDVDだね。」

A R—15 「一体何が入ってるやら。」

読み込ませると画面いっぱいに表示され

た。

UMP45 「ゲーム？」

UMP9 「あ、これ知ってる！自分でコース作ったりする奴だ！」

M16 「これをクリアしろって事か。」

AR—15 「みたいね。」

UMP9 「私やりたーい！」

AR—15 「まあ、いいけど。」

早速ゲームスタート。

UMP9 「よっ！はっ！あ、難しい！あー！」

UMP9 1匹目のク○ボーにつまずく

UMP45 「wwww」

ナレーション 「UMP45 アウト！」

UMP45 「イッタア！ナイン下手くそ！貸しなさい！」

UMP45 に交代。

UMP45 「ここでジャンプよ！あれ？なんで真上にしか飛べないの!？」

M16 「wwww」

ナレーション 「M16 アウト！」

AR—15 「AR—15! さっきもかけたよね!」

オペレーター「少々お待ちください……AR—15様は、まもるくんフロントをご購入ですよね?」

AR—15 「んな粗大ゴミ誰も買わんわ! ボケエ!」

M16 UMP45 UMP9 「wwwwwwwwwwww」

ナレーション「M16 UMP45 UMP9 アウト!」

オペレーター「大変申し訳ありませんでした。少々お待ち下さい。」ブツ!

AR—15 「え? ちよつと? もしもし? もしもし! きりやがつた!」

M4 「wwwwwwwwwwww」

ナレーション「M4 アウト!」

M4 「痛い!」

UMP45 「とんだ悪徳商売ね。」

M16 「いつそ清々しいな。」

UMP9 「これぞカリーナだね。」

AR—15 「あんの金に魂売った守銭奴! 今度あつたら鉛玉叩きこんでやるわ!」

M16 「ステイステイ! 次M4だぞ。」

M4 「あ、そつかあ。じゃあ、行きますよ? ない、横は、ない、? なんかある。」

M4 「他、なんかボタンが。」

〈謎のボタン〉

UMP9 「なんだろう？」

M4 「押してみますね。ポチ。」

天井から何かが落ちてくる。

五人「！」

AR—15 「……………キャンディーじゃん。」

M16 「……………ブツ」

ナレーション「M16 アウト！」

M16 「痛い！」

UMP45 「次私？嫌だなあ…ない、ない…、wwww」

引き出しの中は女物の下着でぎっしり。

M16 UMP9 M4 「wwwwww」

ナレーション「UMP45 M16 UMP9 M4 アウト！」

UMP45 「ああ！」

M16 「痛い！」

UMP9 「うぐっ！」

M 4 「きやあ！」

A R—1 5 「最後の引き出しは：ブフツ！」

〈石ころ〉

ナレーション「UMP 4 5 アウト！」

U M P 4 5 「痛い！」

A R—1 5 「それなんなの？」

U M P 4 5 「どう見てもただの石なんじゃあつつい！」

A R—1 5 「www」

石ころは熱々だった。

ナレーション「A R—1 5 アウト！」

A R—1 5 「あだ！」

U M P 4 5 「次サインよ。」

U M P 9 「オツケー！それじゃあ早そb」

一段目の引き出し、開けた瞬間に絵具が顔面に噴射される。

U M P 4 5 M 1 6 「www www www www www」

ナレーション「UMP 4 5 M 1 6 アウト！」

U M P 4 5 「痛い！」

M 4 「……………」

U M P 9 「……………」

M 1 6 「……………もはや指揮官養成所ってなんだろうな？」

U M P 4 5 「考えたところで無駄よ。それよりナイン、他の引き出しは？」

U M P 9 「ほか？あ、」

〈M 4の絶望顔マスク バージョン2〉

M 1 6 U M P 4 5 A R | 1 5 「wwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「M 1 6 U M P 4 5 A R | 1 5 アウト！」

M 1 6 「痛い！」

U M P 4 5 「いた！」

A R | 1 5 「あーっ！」

M 4 「……………。」（物凄い顔でマスクを凝視している）

U M P 9 「……………」

U M P 9 「イェエエイ!!!」

M 1 6 U M P 4 5 A R | 1 5 「wwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「M 1 6 U M P 4 5 A R | 1 5 アウト！」

M 1 6 「ぐっ！」

UMP45 「痛い！」

AR—15 「ぐう！」

UMP9 「空前絶後のおオオ〜！超絶孤高の独り身管理官！孤高を嫌い、孤高に愛された女！」

UMP45 「wwwwwwwwwwww」

AR—15 「……ハツハツハツハ！」

UMP9 「ポッチ弁当！仲間外れ！一人宅飲み！全ての孤独の経験者！そう 我こそはあああ!!!」

M4 「……」。 (ものすごい顔でマスクを凝視している。)

ヘリアントス 「独身歴〓年齢！ 貯金残高9610万ダイヤ!!」

キヤツシユカードの暗証番号は2741!! 財布は今 楽屋に置いてあります! M

16、今がチャンスだ!!」

M16 「いやww ナインお前ww」

UMP9 「もう一度言います、2741 『2741 (ふなよい)』 って覚えてくだ

さああーい!!! そう 全てをさらけ出した この私は

サンシャイーン へり~~~~ (ボコツ) アンナー!!! イエエエ

イ!!! ジャステイス!!!」

ナレーション「M16 UMP45 AR15 アウト！」

M16「あぐう！」

UMP45「ナインあんたあ！いつつ！」

AR15「ぎゃあ！」

続いてマスクをかぶるUMP9

UMP9「……………」

椅子の上へ乗り、両足を抱える様に座る。

M16「……………ブツ！ふふふふふふ！」

ナレーション「M16 アウト！」

M16「痛い！」

自分が無敵だと気づき出したナイン。調子に乗って合コンに負けた後のヘリアンの物真似をします。

M16「こ、このままでは！何か、何か手立ては？」

引き出しを漁るM16一枚の封筒が出て来た。

M16「これだけ？いや、まだだ！中身は…十分間連帯責任カード？」

〈十分間連帯責任カード〉

M16「なにになに？『このカードが使用された場合、カード使用者以外の誰かが笑つ

た時カード使用者以外の全員がアウトになります』!?)

勢いよく立ち上がるM16

M16 「十分間連帯責任カード、使いまあす!」

ナレーション 「十分間連帯責任カードが発動されました!」

AR115 「何それ?」

M4 「また変なカードが:。」

M16 「M4!」

M4 「は、はい?」

M16 「ダジャレを言うのは、だあーれじあ!」

M4 「え、えつとM16姉さんw」

ナレーション 「M16以外 アウト!」

M4 「え!?!」

UMP45 「連帯責任ってそうゆうこと?」

AR115 「マジで? いったい!」

UMP45 「痛い!」

M4 「きやあ!」

UMP9 「待って待って私今ミニスカートいっただああ”あ”あ”あ!」

M4 「ブツ：はははは！」

ナレーション 「M16 以外 アウト！」

UMP9 「やめて、やめて、お願いだから」 あ あ あ あ！
両手を広げながら膝を突くUMP9

AR—15 「ちよ、ちよつとナインあんたw」

ナレーション 「M16 以外 アウト！」

UMP9 「あ” あ” あ” あ” あ” ああああ！」

M16 「うわ、お前たった3発でもう尻赤くなってるぞ。」

M4 「うわあ……」

AR—15 「これこのまま連帯責任続いたらまずいわよ？」

M16 「そうだなあ（M4マスクを装着）なあ、M4？」

M4 「……………」。」（ものすごい顔でマスクを凝視している。）

AR—15 「ブツふふふふふ」

UMP45 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

UMP9 「誰だわらつたのお！」

ナレーション 「M16 以外 アウト！」

UMP9 「べばああああああああああああああああああ……………」

AR—15 「もうあんた机の下にでも隠れてなさいよ！」

M4 「私達の視界にいると特大の流れ弾をくらい続けちゃうから！」
机の下に隠れるUMP9

M16 「……ところで、他の引き出しには何が入ってるのかな？」

M4 「ちよつと姉さん！」

M16 「お！なんか面白そうなのがあるじゃないか！」

〈ST〉 AR—15 jr〈

AR—15 「まさか……」

AR—15 jr 「うふふふ……あーっハッハッハ！」

ナレーション 「M16以外 アウト！」

UMP9 「おのれAR—15オ！」

AR—15 「私じゃない！私じゃなくてその人形が！」

UMP9 「お前じゃないなら今のは誰だ！うぎやあああああああああ！」

地面に仰向けに倒れるUMP9

UMP45 「し、仕掛け人の皆さん！もうやめてあげて！」

M4 「そうです！このままだと快速修復どころの騒ぎじゃなくなります！」

AR—15 「それにそろそろ十分たつでしょ!？」

ナレーション「十分間連帯責任カードの時間切れまで後3…2…1終了、カードの効力が切れました。」

UMP9「やつと、やつと終わったあ！」（安堵の笑み）

ナレーション「UMP9 アウト！」

UMP9「え？やめて！今のは！今のは無し！やめて！やめろ！やめあがあああああああああああああああああ！」

仰向けのままケツを叩かれてUMP9 大破。その後どこかに連れ去られ、快速修復され、元の服装で戻って来た。

午後15時 作業室にて

引き出しのネタをやり終えた5人は待機室でぐったりしていた。

5人「……………」

M16「なんか、退屈だなく。」

4人「……………」

M16「なんか！ここまでやって何もないと！退屈だなあ！」

4人「……………」

M16「www」

ナレーション「M16 アウト！」

M16「痛！」

UMP45「あんなんなのよ？」

AR—15「そんな誰も笑わないわよ普通。」

UMP9「そんな事より私いつまでヘリアンの格好してればいいの？」

M4「さ、さあ？」

するとドアが開きナガンが入って来る。

UM P 4 5 「あぐう！」

M 4 「早くいきましよう？」

モシンナガン 「そうね、遅刻しない様に急ぎましよう。」

6人は訓練所に移動した。

モシンナガン 「じゃあみんな。しっかりやるのよ！」

男性教官に後を任せて退出するモシンナガン

教官 「わかりました。えー、では君たちにはそのタイプライターを使ってこちらのデータを、文章の形にしてもらおう作業をしよう。」

一列になつてゐるテーブルに M 4 M 1 6 U M P 4 5 U M P 9 A R | 1 5 の順

に並ぶ。

?? 「失礼しまーす！」

〈清掃員 I D W〉

I D W 「清掃に来ましたにやー！」

教官 「そうですか、では、早速お願いします。」

ほか2人の男性清掃員と共に清掃を始める I D W

M 1 6 「……」カタカタ

A R | 1 5 「ねえ？」カタカタ

UMP9 「何？」カタカタ

AR—15 「あんた夜な夜な45に拷問器具みたいな首輪つけられて引き摺り回されてるってホント？」

M16 「ブツフェフツフツww」

ナレーション 「M16 アウト！」

M16 「いつてえ！」

UMP9 「してないよ！あれは私が45姉のプレゼントに首輪渡したのが悪かっただけで！」

AR—15 「何で渡したのよそんなもん？」

UMP9 「似合うと思ったから…。」

UMP45 「似合う訳ないでしょ？全く」カタカタ

M4 「…………。」

M4 (ねえみんな。)

UMP9 (通信？なにM4？)

M4 (ちよつと発見した事が)

M16 (発見？)

M4 (今口リスキンになってるUMP45が一生懸命プリント見ながらタイプライ

ターしてるのを見ると)

AR—15 (見ると?)

M4 (夏休みの自由研究を背伸びしてレポートみたいにしてる小学生に見えます。)

3人 (確かに!)

なんだか微笑ましい物を見るような微笑を浮かべる4人。

ナレーション「M4 M16 AR—15 UMP9 アウト!」

M4「しまった!痛い!」

UMP9「今のもダメなの!?いた!」

M16「しまった不覚だった!あだ!」

AR—15「痛い!」

UMP45「:なによあんたら、勝手に笑って自滅とか気持ち悪いわね。」

AR—15「こらこら言葉が汚いわよ?」

M16「ひどいこと言われてお姉ちゃん悲しいな—?」

UMP45「頭を撫でるな!さつきからなんなのよ?真面目にやんなさい!」

M4「いや、この企画を真面目にやれと言われても:。」

UMP9「ねえ?」

UMP45「身もふたもないこと言ってるんじゃないわよほら！さっさと終わらせるわよー！」

再び無言で作業を始める5人。

M4「ん？」

AR—15「今度はなによ？」

M4「なんだか音しませんか？」

M16「音？」

UMP45「……本当だ。なんか右の方から金属を叩くみたいなのが微かに。」

UMP9「近づいてくるね。」

AR—15「でも近づくってたってなんでそんな音を……たて……」

デストロイヤー「はあ……はあ……はあ……」

〈通風口を辿って来た脱走捕虜 デストロイヤー〉

M4「ええ……。」

M16「いつそデータ上書きしてやった方が幸せなんじゃないか？」

UMP45「グリフィンも酷な事をするわね」

AR—15「でも何で逃げ出したのかしら？」

UMP9「Five sevenがなんかしたんじゃない？」

DESTROYヤー「ひっ！」

思わず通風口から落ちかけるDESTROYヤー

UMP姉妹「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「UMP45 UMP9 アウト！」

DESTROYヤー「……………」(睨みつけてくる。)

UMP45「ごめ、ごめんなさい！わざとじゃないのいったあ！」

UMP9「痛い！」

M4「というか彼らは気付かないですね。」

清掃員「……………」

教官「……………」

M16「案外抜けてんのかもな。」

仕事を続ける5人

IDW「ふう…………ちよつと喉渴いたにや。」

水の入った花瓶を見るIDW

M16「まさか……………」

UMP45「いやいやそんなまさか。」

IDW「チラ…チラ…グビグビグビ！」

M 1 6 U M P 4 5 M 4 「w w w w w w w w w w」

ナレーション「M 1 6 U M P 4 5 M 4 アウト！」

M 1 6 「痛い！」

U M P 4 5 「ぐっ！」

M 4 「いった！」

教官「ん？…あそこを見ろ！捕虜が逃げ出す！」

M 1 6 「そっちかよ！」

I D W 「ブッフウッフ！」

3人が目を離れた際に盛大に水を吹き出すI D W

M 4 「ブッフ！」

ナレーション「M 4 アウト！」

M 4 「きゃあ！」

デストロイヤー「うう…なんで私ばかりこんな目に……。」

3人に引き摺り下ろされるデストロイヤー。

その隙に花瓶を元に戻すI D W。ちゃんと水も入れる。

M 1 6 「……………」

A R 1 5 「今度あの子をA R小隊に誘おうかしら？」

M4 「AR―15それはSOPMODあたりにおもちやにされてしまうのでは…。」
UMP45 「うちに来たらうちに来たで416にいびられてG11にパシられる未来しか見えないわよ。」

M16 「なんの違和感もなく想像出来るのが凄いな。」
そして戻って再び作業を開始する大人達。

IDW 「うう…まだ喉渴いてるにや。」

UMP9 「まあほとんど戻してたしね。」

M4 「床濡れてるのになんでみんな気づかないんでしょう？」

UMP45 「馬鹿だからよ。」

IDW 「よし、グビグビグビ」

隙を見てまた花瓶の水を飲むIDW

教官 「……………ん？ 貴様！なにをしている！」

IDW 「！」

教官 「その口を膨らませてるのはなんだ!？」

IDW 「……………」 ダバダバダバダバ

M16 UMP45 「wwwwww」

ナレーション 「M16 UMP45アウト！」

M16 「いった!」

UMP45 「痛い!」

教官 「連れて行け!」

残りの2人に連行されるIDW

IDW 「グフツ……ウエツフ! バフユエフユエブ!」

UMP45 UMP9 AR15 「wwwwwwww」

ナレーション 「UMP45 UMP9 AR15アウト!」

UMP45 「どんなむせかたよ! いった!」

UMP9 「痛い!」

AR15 「あぐ!」

17時 講堂にて

一度待機室に戻った5人。

UMP45 「意外と普通に書類仕事して終わったわね。」

AR—15 「いい骨休めになったわ」

M16 「仕事してたはずなんだけどな。」

しばらくブーツとしてしていると唐突にサイレンが鳴り響く。

アナウンス 「緊急事態発生！緊急事態発生！館内にいる者は至急講堂に集合せよ！」

モシナガン 「入るわよ！皆聞いたわね！今すぐ講堂に行くわよ！」

M4 「あの、いったい何が？」

モシナガン 「なんでもウイルスに感染して自覚がないままハッキングされた戦術人形が見つかったらしいわ！」

UMP9 「ウイルスに感染？」

AR—15 「私のことかしら？」

UMP45 「あんたのはもう除去してあるわよ。」

6人は講堂に向かった。

SPAS12 「えー皆さんお集まりですね？私は警備責任者のSPAS12です。」

〈警備責任者 SPAS12〉

SPAS12 「今回皆さんに集まっていたいたのは他でもない。この中に重大な裏切り者がいる事がわかったのです！」

M16 「今までのでなんかさうゆうのあつたつけ？」

M4 「特になかったかと。」

SPAS12 「その人物はハッキングされた事が無自覚なまま敵に情報を送ってしまっていたのです。しかし我々にわかったのはそこまで。残念ながら裏切り者を見分ける術はない…そこで！我々は正規軍より超凄腕の尋問官をお呼びしました！この方ですー！」

「ガアッデェム！」

(BGM CRASH 〽戦慄〽)

M4 「え？何？」

M16 「なんだこのプロレスの入場曲みたいなの？」

AR15 「もう何が来たって驚かないわよ？」

UMP40 「俺だオラ！エー！」

5人「!?」

〈超凄腕尋問官 UMP40〉

M4 「えっと…誰？」

AR—15 「あんたらに似てなくもないけど姉妹？…45あんた聞いてる？」

UMP45 「いや、だつて…え？待つてよ。ありえなくない？」

AR—15 「いや私に聞かれても。」

M16 「ナインはなんか知らない？」

UMP9 「いや知ってるけど、知ってるけど…ここに居ないはずなんだけど？」

M16 「そうなのか？」

UMP40 「この中に、裏切り者がいる。もしほんの僅かにでも自分ではないかと思う者は、手を挙げる。」

誰も手をあげない。

UMP40 「そうか、それは残念だ。ではまず、裏切り者がどの様にハッキングされたかを説明しよう。敵は密かに、ハッキング用のナノマシンを開発していた。ある特殊な水の中でしか活動出来ないかわりに相手に気付かれる事なくハッキング出来る優れ物だ。それは絵具状になってこの施設の何処かの引き出しに設置されていた！」

UMP9 「それってまさか…。」

M16 「…ブフッ！」

M4 「フフツ」

AR―15 「ナインあんたw」

ナレーション「M16 M4 AR―15 アウト！」

M16 「いつて！」

M4 「きやあ！」

AR―15 「痛い！」

UMP40 「それを顔面から浴びた者はカメラを乗っ取られて見た情報を敵に送信してしまう。そこで我々はハッキングされたと自己申告してくれたある人形の協力のもと、裏切り者を見分ける術を得た。連れてこい！」

SPAS12 「はい！こちらに。」

G41 「わんわんわん！」

3人「wwwwwwwwwwwwwwwwww」

UMP40 「警察犬型人形のG41だ。」

〈警察犬型人形 G41〉

ナレーション「M16 M4 AR―15アウト！」

M16 「うぐ！」

M4 「痛い！」

AR—15 「いったい！」

UMP40 「彼女は奴らが使うナノマシンの水の匂いを嗅ぎ分けることが出来る！一人一人、順番に回って行く。まずお前！」

M16 「は、はい…。」

G41 「く〜ん。」

UMP40 「違うな。次！お前！」

M4 「はい…。」

G41 「わふう〜」

UMP40 「違うな。次い！」

AR—15 「……………」

G41 「……………フツ！」

AR—15 「フツ！って何よ！」

M16 M4 UMP9 「wwww」

ナレーション 「M16 M4 UMP9 アウト！」

M16 「痛い！」

M4 「きやあ！」

UMP9 「イギ！」

U M P 4 0 「次、お前！」

U M P 4 5 「待ってよ、40? 本当に40なの？」

U M P 4 0 「見りやわかるだろ、さあ！」

G 4 1 「ウウゝバウ! バウバウ！」

U M P 4 0 「え? お前なの？」

3人「w w w w w w w w w w」

ナレーション「M 1 6 M 4 A R — 1 5 アウト！」

M 1 6 「痛！」

M 4 「痛い！」

A R — 1 5 「いった！」

U M P 4 0 「お前…。」

U M P 4 5 「よ、40?」

U M P 4 0 「あがれ。」

首根っこを掴まれ引つ張られて行く45

U M P 4 5 「ねえ40? あなたいつ正規g」

口を強引に塞がれる45

U M P 4 0 「黙ってろチビ。」

M 1 6 「……………フフツ」

M 4 「ちよつと姉さん！」

ナレーション「M 1 6 アウト！」

M 1 6 「いて！」

U M P 4 5 「待ってお願い！話を聞いて！4 0！本当に4 0なの？私の知ってる4 0なの!？」

U M P 4 0 「騒ぐなあ！」

U M P 4 5 「ヒッ！」

U M P 4 0 「お前を知っていようと知ってしまいとこれから俺がお前にやる事は一つだけだ。」

U M P 4 5 「一つつて？」

U M P 4 0 「浄化のビンタだ。」

U M P 4 5 「浄化のビンタあ？」

U M P 4 0 「行くぞ！5！4！3！」

U M P 4 5 「待って4 0！あなた4 0なの？4 0よね？私のこと忘れちゃったの!？」

U M P 4 0 「忘れたよ。だからなんだあ！」

U M P 4 5 「う…」

UMP40 「? おいまさか」

UMP45 「うう…」

UMP40 「おい待てそれは勘弁」

UMP45 「ううああああああああああああああああああああ!」

UMP40 「嘘でしょ45落ちて着いて! あたい3秒後にあなたを殴らなきやなのに!

45マジ泣き

3人 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション 「M16 M4 AR—15アウト!」

M16 「いや45そりやないよ! 痛い!」

M4 「あれ全部演技だったんですか!?! 痛い!」

AR—15 「演技と素のギャップが激しすぎよ! あぐ!」

UMP40 「よしよし大丈夫! 忘れてない忘れてないから!」

自分の胸で45を落ち着かせる40

UMP45 「40…:…」

UMP40 「なに?」

UMP45 「意地悪。大嫌い。」

U M P 4 0 「ぐう！」

心臓のあたりを抑えてうずくまる40

U M P 9 「あちやあく。」

M 4 「あれは効きましたね。」

A R — 1 5 「半分以上自業自得でしょ？」

壇上から半泣きで降りてくる45

M 1 6 「45お疲れさま」

M 4 「大丈夫ですか？」

U M P 4 5 「……」。ブンブン

A R — 1 5 「…その、こっち来な？」

45を招くA R — 1 5

U M P 4 5 「うう…うああああああん！40に嫌いって言っちゃった！嫌いって言っちゃった！」

45再びマジ泣き

A R — 1 5 （ええ？これ私どうしたらいいの？）

M 1 6 （そりゃ最後まで責任取るんだよ。）

M 4 （暖かいベットと絵本が必要ね。）

AR—15 (私は母親か!)

UMP9 (いや実際デストロイヤーの件といい向いてるんじゃない?)

AR—15 (うるさい。)

UMP40 「ふっふっふっ! はは、あは、あはははははははははははははははは!」
4人「!?!」

SPAS12 「あの、尋問官?」

UMP40 「おいSPAS」

SPAS12 「:ははは。」

UMP40 「さっきのG41がダミーだったって事はないか?」

SPAS12 「え?」

UMP40 「さっきのG41がダミーだったかどうか聞いてるんだ!」

SPAS12の胸ぐらを掴む40

AR—15 「嘘でしょまさか」

SPAS12 「確か本物だったかと!」

UMP40 「確か? 確かだ?! 今すぐ確認してこいこのタクがあ!」

八つ当たりのビンタ炸裂!

UMP40 「ガアッデム!」

M 16 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

ナレーション「M 16 アウト！」

UMP 9 「え、M 16……」

M 4 「姉さんあなたって人は…。」

M 16 「痛！」

AR—15 (にしても酷い八つ当たりね。)

SPAS 12 「嘘？え？待って台本にないじゃん？え？」

M 4 (台本って……)

AR—15 (やっぱり台本だったんだ。)

M 16 (そらこれで台本通りなはずないわな)

UMP 40 「台本？何訳のわからない事を言っている？今すぐ確認して来い！」

SPAS 12 「は、はい！」

M 16 「可哀想に。」

M 4 「理不尽のお手本みたいな展開ですネ。」

AR—15 「それを言ったらこの企画そのものが理不尽だけど？」

SPAS 12 「確認取れました！さっきのG 4 1はダメーでこの娘が本物です！」

G 4 1 (本物) 「わんわん！」

U M P 4 0 「よし！調べ直すぞ！まずお前！」

M 1 6 「はい。」

G 4 1 (本物) 「わん！」

U M P 4 0 「違うな、次い！」

M 4 「……。」

G 4 1 (本物) 「わん！」

U M P 4 0 「お前も違うな。次のお前！」

A R — 1 5 (後で謝つときなさいよ?)

U M P 4 0 (分かつてる。それまでその子をよろしくね？その子寂しくなると泣くから。)

G 4 1 (本物) 「わん！」

U M P 4 0 「違うな。さっきのお前！」

U M P 4 5 「ふん！」

G 4 1 (本物) 「わん！」

U M P 4 0 「今度こそ違うな？最後のお前！」

G 4 1 (本物) 「ウウゝバウ！バウバウ！」

U M P 4 0 「お前かあ！来い！」

UMP9 「いやちよ痛い痛い髪引つ張らないで！」

無理矢理壇上にあげられるUMP9

UMP40 「まず最初に言っておく。これはあくまでお前に仕込まれたウイルスを除去するためにやる事だ。悪く思うな？」

UMP9 「嫌です。」

UMP40 「よしでは始めるぞ。」

UMP9 「いや待って待って待って待ってください！本当に！本当にピンタは嫌なんです！何か！何か他にないんですか!？」

UMP40 「無くはないが、ある意味ピンタより辛いぞ？」

UMP9 「やります。やらせてください！」

UMP40 「いいだろう。アレを持って来い！」

ナインが昼に食べたのと同じレーションとミキサー、そして2リットルぐらい水が入りそうな聖杯が運ばれてくる。

UMP9 「えつと…これは？」

UMP40 「選べ。一気食いか一気飲みか。」

UMP9 「…一気飲みでお願いします。」

レーションが次々ミキサーにかけられて聖杯に注がれて行く。

20時 深夜の司令部

まだ半泣きのUMP45の手を引くAR15、M4、M16、そして未だ頬の痛みを引きずるUMP9と控え室に入る。

5人「……………」

UMP9「私さ、自分で言うのもなんだけど45姉や416程地獄に落とされる理由がないと思うんだけど。」

M16「いきなりどうした？」

M4「なんの話？」

UMP9「いやビンタだよ！あとお色直しとか捕まってはいけないの時の足かせとか！」

AR15「それを言うなら私のタイキックだってなんなのよ？」

UMP9「あれは私も氷バケツ付きでやられてるから！」

M4「フフツツ」

ナレーション「M4 アウト！」

M4「痛！」

UMP9 「それに引き換えなんだお前らは！お仕置きが軽すぎる！」

M16 「こいつ…いつそ清々しいまでに死なば諸共だな。」

AR15 「1人で死んでなさいよ…。」

そんな時、不意にTVがついた。

???? 「あーっはっはっはっは！」

M4 「今度は何？」

AR15 「毎回予想の斜め上をいくから困るのよ。」

アーキテクト「遂に来たのよ！この私の！きたる世界の女王アーキテクト様の時代が

！」

〈きたる世界の女王 アーキテクト〉

UMP9 「また変なのが出てきたなあ…。」

アーキテクト「さあ往け！私の可愛い手下達！」

アーキテクトの手下達「イー！」

大量の黒ずくめにガスマスクの男？達がM4、AR15、UMP9を拐っていく。

M4 「な！ちよつと離して！」

AR15 「やめろ！やめなさいってこの！」

UMP9 「45姉！」

取り残されるM16とUMP45

M16 「えっと…これはどうゆう事だ？」

モシンナガン 「皆無事!? 良かった2人はいるわね。救出任務よ！」

UMP45 「救出任務？」

モシンナガン 「今現在この司令部は占拠されているわ。仲間を助けてアーキテクトを止めて！」

M16 「具体的には？」

モシンナガン 「場所は司令部全域、途中で笑つてもお仕置きはされないけど驚いたらお仕置きだから気をつけてね。」

M16 「また変則ルールかよ…。」

UMP45 「いつの間にか外に看板とかロープで順路ができてるし。」

驚いてはいけないスタート。その頃3人は

AR115 「ちよっとなんで私だけ1人なのよ! 待って待って!」

1人で監禁されるAR115

M4 「AR115! やめて! 離して!」

UMP9 「ヤダヤダ暗くて狭いの嫌い! 出してー!」

同じ部屋に2人で監禁されるM4とUMP9

UMP9 「うわあ…真っ暗でなんも見えないや。」

M4 「慣れるまでしばらくかかりそうですね。」

UMP9 「……………暇だね。M4 歌でも歌ってよ。」

M4 「歌？私ですか？」

UMP9 「なんか歌えそうじゃん？」

M4 「そうですね？じゃあ、♪ (motto) ☆派手にね！ 戸松遥」

UMP9 (え？超うま。)

その頃、AR—15は

「……………暇ね。」

そしてそんな3人を探すM16とUMP45

UMP45 「暗いわね……………」

M16 「地味に裾掴むのやめてくれないか？」

UMP45 「な、なんのことよ？」

M16 (いやなんのことよって。やっぱりメンタルがスキンに引つ張られてるみたいだな。)

順路を進んでいくと森の入り口に出た。

M16 「うわあこの奥行くのか。」

UMP 45 「うう……」

嫌々奥に進む2人。

M 16 「なんかまたお化けとか出てきそうなトンネルだな。」

UMP 45 「ちよ！変なこと言わないでよ！」

M 16 「なんだ入るの嫌なのか？ならここで1人で待っていても」

UMP 45 「待って待ってそれはもつと嫌！」

半泣きになりながらM 16についていくUMP 45

UMP 45 「やだあ……。」

M 16 (こいつ可愛いな……)

奥に奥にと進んでいく。

M 16 「おい誰かいなか！」

AR—15 「今のつてM 16？」

AR—15 発見。

UMP 45 「良かった無事だったのね！」

AR—15 「縛られてるけどね。」

救出。

M 16 「残り2人とは一緒じゃないのか？」

AR—15 「なんか私だけハブられて。2人は一緒なんじゃない？」

3人はきた道を引き返した。

AR—15 「連れてこられた時はパニックってわかんなかったけど結構不気味な森ね。」

UMP45 「うん…。」

M16 「何か出なければいいけど」

「捕まるもんかあ！」

3人「!？」

警備員 「待て！早まるな！」

M16 「あそこにいるのはまさか……。」

AR—15 「あの娘……。」

へチエーンソーを持った脱走捕虜 デストロイヤーへ

デストロイヤー 「どうせ！どうせ！どうせあの兎デカ女に玩具にされるだけなら！」

AR—15 「やっぱりFive sevenだったのね。」

デストロイヤー 「幾らでも道連れにしてやるわよ！」

チエーンソーのスイツチを入れるデストロイヤー

M16 「ま、まさか」

DESTROYヤー「くらええええええ！」

次々と木を斬り倒していくDESTROYヤー

UMP45「ちよつとちよつと！こつちにも倒れてくるじゃない！」

AR15「走つて！切り抜けるわよ！」

全力で森の外に出る3人。

M16「DESTROYヤーの奴よつぽど溜まってたんだな。」

AR15「何をされ続けたらあんなになるのよ？」

UMP45「それより行こうよ。つてあれ？」

AR15「どうかした？」

UMP45「あんな所に公衆電話なんてあつたつけ？」

M16「確かなかつた、よな？」

AR15「ええ。無かつたわ。」

UMP45「寄り道いいからさっさと行こうよ。」

M16「だな。」

U????「ちよつと待った！」

UMP45「え？」

AR15「何の用よWA2000。」

〈謎のツンデレ WA2000〉

わーちゃん 「何の用よ？ じゃないわよ！ その電話ボックス！ なんて行かないのよ！」

M16 「いやなんでって」

UMP45 「ねえ？」

わーちゃん 「何びびってるのよ？ 電話ボックス！ ただの電話ボックスよ？ 何を恐れる必要があるのよ？」

UMP45 「それを言うならあなたが行けばいいじゃない。」

わーちゃん 「え？」

M16 「……そうだな。 お前が出てみろよ。」

わーちゃん 「い、いや」

AR15 「恐れることはないんでしょ？」

ならやってみなさいよ！ まさか怖いのか？」

わーちゃん 「な！ そんなわけないでしょ！」

UMP45 「じゃあやってみなさいよ。」

AR15 「あんたの勇姿を見届けてやるわよ。」

わーちゃん 「うう……いいわよやってみるわよ！」

順路を進んでいき、M4とUMP9の部屋に到着

M4「♪(secret base)君がくれたもの(戸松遥)」

UMP9「ブラボー!あ、45姉!皆!」

M4「あ、M16姉さん、AR-15、45。」

M16「お、おう。お前歌上手いな。」

AR-15「意外な特技ね。知らなかったわ。」

UMP45「あんたらカラオケとか行かないのね。」

M16「404小隊は結構行くのか?」

UMP9「416は黒猫のタンゴとか上手いよ!」

AR-15「絶妙なやつを歌うわね。」

二人の拘束を解き、再び五人が揃う。

M16「よし後は脱出するだけだな。」

しかし唐突にサイレンが鳴り響き、部屋のTVがつく。

アーキテクト「おのれ!おのれおのれおのれ!

まさか貴様らごときに最終兵器を奪われるなんて!

うわあああああああああ!

画面に映ったアーキテクトが瓦礫に潰される。

AR—15 「何よあれ！完全に殺す気じゃない！」

UMP9 「早く逃げよう！窓から出たら丁度建物が影になる！」

5人は窓から外に出た。

UMP45 「あんな所にトロツコが！」

M4 「乗りましょう！歩くより早いです！」

乗り込むと何故か見計らったようなタイミングで先程のガスマスク達が追いかけて来た。

M16 「こんな時になんだよ！」

M4 「喋つてないで手を動かして！」

何故か地雷が爆発する道をつ切っていく。

UMP9 「前見て！なんかランチャー構えてるのが居る！」

M16 「何とか止まれないか!？」

AR—15 「無理よこんなスピードじゃ！」

身構える5人。ランチャーが発射される。

5人「……………」

M4 「?…………これは、紙吹雪？」

するとランチャーを構えていた男とガスマスク達が拍手を始める。

ランチャー男「おめでとう！君たちは無事、笑ってはいけなさをやり終えた。」

ガスマスク1「全ての仕掛け人を代表してあなた達を心からお祝いするわ。」

UMP45「その声は…指揮官に416?」

416「バレた?G11とAR小隊の二人もいるわよ?」

M4「まさかあなた達が?」

SOPMOD「大筋の企画を考えたのは私達だよー!」

指揮官「全てはこのAR小隊と404小隊の合同任務の為にな。」

AR115「それとタイキックがどう繋がるんですか?」

指揮官「いやタイキックはぶっちゃけ関係ない。」

むしろ笑ってはいけないである必要はなかったと言える。

大事なのはAR小隊と404小隊が諸々の確執を取っ払って団結することだったからな。」

M16「はあ?」

指揮官「明日から行われる合同任務は極めて重要であり、

尚且つ任務遂行には君たちの団結が必要不可欠。」

RO「そこで指揮官がこの企画で仕掛け人と仕掛けられる側で二つの小隊を半分ずつに分ける案を思いつき実行したわけです。」

G11「最初はSOPMODが基地を爆破しようとか言い出したけど最終的には楽しかったかな。」

5人「……………」

UMP9「はい質問！」

指揮官「なんだナイン？」

UMP9「私だだそれだけの為にピンタされたの？」

指揮官「え？」

AR15「そんだけの為に私タイキックされたの？」

UMP45「しかも見間違いないじゃないやこの指令書、合同任務明日だって書いてあるんだけど？」

M4「指揮官。」

指揮官「お、おう。」

M4「あなたに脊椎なんて必要ですか？」

指揮官「いやちよ、ちよつとまぎやあああああああああああああ！」

RO「あちゃ……………」

SOPMOD「はっはっは！まあそうなるよね。」

416「ま、これに懲りたらオンエアするなんてバカな真似は流石に」

指揮官「待つて待つて落ち着いて！オンエアされた暁には君たちにも特別休暇とボーナスがついていぎやあああああああああああああああああああああ！」

4人「……………」

G11「全く懲りてないね。」

RO「指揮官、おまえの罪を数えろ。」